

ラグビー ワールドカップ 2019 を 語ろう！

— 4年に一度じゃない。一生に一度だ—

2009年度の公開シンポジウムで取り上げたラグビーワールドカップ。当時はまだ先の話で実感がありませんでしたが、いよいよその年になりました。日本代表はもちろん、開催自治体はじめ、全国各地でさまざまな“挑戦”が為されています。シンポジウムでは数々の“挑戦”をご紹介いただきながらラグビーの、そしてワールドカップの魅力を共有し、2019年日本大会を盛り上げ、楽しみたいと思います。2019年の成果をいかに2020年につなげるか。そしてその先に何を残すかについても考えたいですね。

2019(令和元)年7月14日

特定非営利活動法人サロン 2002

理事長 中塚義実

シンポジウム運営	大河原誠二	笹原 勉	嶋崎 雅規	関 秀忠
	茅野 英一	中塚 義実	平井 悠登	松下 徹
	守屋 佐栄	守屋 俊秀		

NPO 法人サロン 2002 公開シンポジウム 2019

ラグビーワールドカップ 2019 を語ろう！

－ 4 年に一度じゃない。一生に一度だ－

いよいよ本年 9 月 20 日に、ラグビーワールドカップ(RWC)日本大会が開幕します。RWC は FIFA ワールドカップ、オリンピックと並ぶ世界 3 大スポーツイベントと言われており、約 1 か月半の大会期間中は多くのファンが海外から来日し、日本中が盛り上がるのが予想されています。4 年に一度の大会ですが、日本で開かれるのはおそらく一生に一度。歴史的なビッグイベントです。

特定非営利活動法人サロン 2002 は、スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”を“志”とする NPO です。月例会はすでに 270 回を越え、公開シンポジウムでは毎年さまざまな話題を取り上げてきました。

今年の公開シンポジウムでは、ラグビーのワールドカップを取り上げます。

2009 年度の公開シンポジウムで取り上げたラグビーワールドカップ。当時はまだ先の話で実感がありませんでしたが、いよいよその年になりました。日本代表はもちろん、開催自治体はじめ、全国各地でさまざまな“挑戦”が為されています。シンポジウムでは数々の“挑戦”をご紹介いただきながらラグビーの、そしてワールドカップの魅力を共有し、2019 年日本大会を盛り上げ、楽しみたいと思います。2019 年の成果をいかに 2020 年につなげるか。そしてその先に何を残すかについても考えたいですね。

シンポジウム終了後は同会場で懇親会を企画しています。さまざまな立場の方が、立場を越えて交流を深める場となることを願っています。

多くの方にお集まりいただき、ラグビーワールドカップをざっくばらんに語り合いましょう。

特定非営利活動法人サロン 2002

理事長 中塚義実

記

- 主 催 : 特定非営利活動法人サロン 2002
- 後 援 : 公益財団法人日本ラグビーフットボール協会
公益財団法人ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会
- 日 時 : 2019(令和元)年 7 月 14 日(日) 14:00 ~ 17:00 (受付 13:30 ~)
※懇親会 17:30 ~ 19:00
- 会 場 : 桐蔭会館
〒112-0012 東京都文京区大塚 1-9-1 (筑波大学附属中学・高校 敷地内)
東京メトロ 有楽町線 護国寺駅 5 番出口より徒歩 8 分
東京メトロ 丸ノ内線 茗荷谷駅 より徒歩 10 分
- 演 者 : 薫田 真広 ((公財)日本ラグビーフットボール協会、元日本代表キャプテン)
徳増 浩司 (ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会事務総長特別補佐、アジアラグビー会長)
村田 互 (専修大学ラグビー部監督、元 7 人制日本代表監督)
※嶋崎 雅規 (NPO 法人サロン 2002 理事、国際武道大学) ※コーディネーターを兼ねる
- 参加費 : 会 員 1,500 円 未会員 2,500 円 ※懇親会参加費は 2,500 円
- 参加申込 : 下記アドレスからご登録ください。
<https://forms.gle/cxiALGtMzJF7cqmg9>
NPO 法人サロン 2002 オフィシャルサイトの「お知らせ」からも申し込むことができます。
<https://www.salon2002.net/>
- 事務局 : salon2002.info@gmail.com (担当: 岸・皆川)
<https://goo.gl/7Fk5Xi>
NPO 法人サロン 2002 オフィシャルサイトの「お知らせ」からも申し込むことができます。
<https://www.salon2002.net/>
- 事務局 : salon2002.info@gmail.com (担当: 岸)

<特定非営利活動法人サロン 2002 とは>

特定非営利活動法人サロン 2002 は、スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”を“志”とする NPO です。

全国各地にいる約 100 名のメンバーは、学校関係者、スポーツ指導者やトレーナー、スポーツクラブの運営に携わる方、フットサルや草サッカーの関係者、メディア関係者、サポーターやボランティア、スポーツ行政に携わる方や競技団体関係者、医者や弁護士、アーティストなど多種多様です。さまざまな角度からスポーツに携わり、“志”の実現に向けて活動する者で構成されるのが「サロン 2002」です。

NPO 法人サロン 2002 の主たる活動は、2019 年 4 月で通算 272 回となった月例会の開催と、その内容を軸とするホームページの運営です。本公開シンポジウムは 2001 年度よりほぼ毎年行われ、人と情報の行き交う場として定着しています。

詳細はホームページ <<http://www.salon2002.net>> をご覧ください。

<サロン 2002 公開シンポジウム>

2001 年度…FIFA コンフェデレーションズカップ 総括
2002 年度…FIFA ワールドカップ総括
2003 年度…地域で育てるこれからのスポーツ環境
2004 年度…t o t o を活かそう！
2005 年度…クラマーさん、ありがとう！
2006 年度…2006 年ドイツで感じたこと
2007 年度…サッカー観戦を楽しもう！－スタジアム編
2008 年度…地域からみた J リーグ百年構想
2009 年度…2019 年ラグビーワールドカップを語ろう！
2010 年度…育成期のサッカーを語ろう！
2011 年度…高校サッカー 90 年史を語ろう！
2012 年度…U-18 フットサルを語ろう！
2013 年度…スポーツクラブの法人化を語ろう！
2015 年度…スポーツで“ゆたかなくらし”を！
2016 年度…日本サッカーのルーツを語ろう！
2017 年度…Before2002, After2020- 20 周年記念
2018 年度…部活動を語ろう！

サロン 2002 設立宣言

(2000 年 4 月 1 日)

我々は、以下に「サロン 2002 の“歴史”」、「サロン 2002 の“志”」及び「サロン 2002 の“会員”」を述べるにより、ここにあらためてサロン 2002 の設立を宣言する。

【サロン 2002 の“歴史”】

サロン 2002 は、社会学、心理学等の専門的立場からサッカーの分析・研究・報告に従事していた「社・心グループ」（財団法人日本サッカー協会科学研究委員会の研究グループの一つで、1980 年代後半からこの名称で活動）を前身とし、1997 年からは研究者という枠にとらわれない、幅広い人材によって構成されるゆるやかな情報交流グループ「サロン 2002」として活動を行ってきた。

【サロン 2002 の“志”】

サロン 2002 は、サッカー・スポーツを通して 21 世紀の“ゆたかなくらしづくり”を目指すことを“志”とする。年齢、性別、国籍、職業、専門分野、生活地域などを超えた幅広いネットワークを築き上げ、全国各地にサロン 2002 の“志”の輪を広げ、大きなムーブメントとなることを目指す。

サロン 2002 の“志”を実現する上で、2002 年 FIFA ワールドカップ韓国／日本大会は大きな節目であると認識する。国内外の様々な人々と協力しながら、この世界的なイベントの“成功”に貢献するとともに、同大会後の“ゆたかなくらしづくり”のためにできることを考え、行動する。

【サロン 2002 の“会員”】

サロン 2002 は、前項の“志”を同じくする人たちのゆるやかなネットワークである。

サロン 2002 の“志”に賛同した個人であれば、誰でも、“会員”となることができる。ただし会員は、サロン 2002 からの“Take”を求めるだけでなく、サロン 2002 に対して、また社会に対して何が“Give”できるかを常に考え、“Give and Take”の姿勢でいるということが前提である。

サロン 2002 は、会員に対して短期的な成果は求めない。長い目を見た“Give and Take”の関係が成り立っていればよい。即座のアウトプットが困難であっても、いずれ何らかの形で“Give”を考えている人なら“会員”となることができる。

シンポジウムの進行と内容

第1部 プレゼンテーション (14:00 ~ 15:45)

1) コーディネーター (嶋崎) より

本シンポジウムの背景、進め方を共有し、「ラグビーワールドカップ」の歴史をざっと振り返ります。

2) 演者① 村田 亙 3大会出場の前日本代表が語るラグビーワールドカップのすばらしさ

1991年から3大会連続出場したラグビーワールドカップのすばらしさを語ります。91年のスコットランド戦で初めて日本代表スクラムハーフに起用されたときのこと、95年のニュージーランド戦で17-145と歴史的な大敗を喫したことなども交えて、選手ならではの視点からお話します。

また、今大会の展望や見どころなども。日本代表が1次リーグA組で、アイルランド、スコットランドといった強豪や、ロシア、サモアといったフィジカルを前面に押し出してくるチームと戦い、決勝トーナメントに進出するか、自分なりにお話します。

3) 演者② 薫田 真広 RWC2015 南アフリカ戦の勝利から日本は何を学んだのか

—日本代表ベスト8への道

RWC2015 初戦の南アフリカ戦の勝利で日本ラグビーが大きく変わりました。世界的に知将で知られるエディー・ジョーンズ前HCから、ホスト国として現在開幕まで100日を切った今、どのようなポイントで強化を進めてきたか皆様と共に振り返りたいと思います。

4) 演者③ 徳増 浩司 アジアラグビー協会名誉会長が語る RWC 2019 日本大会招致の舞台裏

「ラグビーワールドカップ2019」日本開催に至る招致活動の概要をお話します。当時、招致活動にはどのような壁があり、それをどう乗り越えていったか。これから国際大会招致を計画している他のスポーツ競技団体や、国際コミュニケーションに関心を持っているみなさまにも参考になる具体的エピソードを挙げながら説明します。

休憩 (15:45~16:00)

この間に質問紙を受け付けます。

第2部 ディスカッション (16:00 ~ 17:00)

会場全体で意見交換します。

演者プロフィール

◆村田 互（専修大学ラグビー部監督、元 7 人制日本代表監督）

1968 年福岡県生まれ。専修大学 4 年時には主将として関東大学リーグ優勝に貢献。卒業後、東芝府中に入社。1996 年度からの日本選手権 3 連覇に貢献した。1991 年のアメリカ代表戦で日本代表初キャップを得る。ラグビーワールドカップには第 2 回大会(1991 年)、第 3 回大会(1995 年)、第 4 回大会(1999 年)の 3 度出場している。日本代表キャップ数は 41。1999 年、フランスリーグのアビロン・バイヨンヌとプロ契約し、日本人初のプロ選手となった。デビュー戦でいきなり 2 トライを挙げるなど、フランスリーグでは公式戦に 40 試合出場し 7 トライを挙げ、チームの中心選手として活躍した。2001 年（平成 13 年）にヤマハ発動機ジュビロに移籍。2008 年 2 月、日本ラグビー協会より 7 人制日本代表監督の要請を受け就任。2012 年から専修大学ラグビー部の監督を務め、同大学は 2014 年に 13 年ぶりの 1 部復帰を果たした。

◆薫田 真広（(公財) 日本ラグビーフットボール協会、元日本代表キャプテン）

1966 年生まれ。岐阜県各務原市出身。筑波大卒業後、(株) 東芝入社。1988 年ラグビー日本代表に初選出され、1990 年ラグビーワールドカップ予選、西サモア戦で初キャップ獲得。1991、1995、1999 年のラグビーワールドカップ三大会出場し、1995 年は主将。2000 年日本代表、東芝府中ラグビー部（現：東芝ラグビー部）引退。U 21 日本代表アシスタントコーチを経て、2002 年東芝府中の監督就任。トップリーグ 3 連覇含む、5 年間で 11 タイトル中 8 タイトル獲得。2007 年 U 20 日本代表監督、2009 年日本 A 代表監督、2011 年日本代表アシスタントコーチ。2013 年ラグビーワールドカップ 2019 戦略室長就任。2015 年東芝 Brave Lupus 総監督就任。2016 年男子 15 人制日本代表強化委員長。(公財) 日本ラグビーフットボール協会特任理事。2018 年同ラグビー協会理事。

◆徳増 浩司（ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会事務総長特別補佐、アジアラグビー名誉会長）

1952 年生まれ。国際基督教大学 (ICU) 卒業後、英国ウェールズに留学。1980 年より茨城県茗溪学園中学高校でラグビー部の指導にあたり、第 68 回全国大会で同校を全国優勝に導く。1994 年より日本ラグビーフットボール協会に勤務。2003 年より、ラグビーワールドカップの招致委員会事務局長として活動し、2009 年に招致成功。

2012 年よりアジアラグビー協会理事、ワールドラグビー理事（アジア代表）、日本協会理事を歴任。2015 年 12 月、アジアラグビー協会の会長に選出され、現在は同名誉会長。

著書に『ラグビー もっとも受けたいコーチングの授業』（ベースボールマガジン、2018）

◆嶋崎 雅規（国際武道大学体育学部教授／NPO 法人サロン 2002 理事）

1962 年東京生まれ。早稲田大学第一文学部文学科日本文学専修卒業。1986 年 4 月より帝京中学・高等学校国語科教諭。同年ラグビー部を創部、以後 29 年間高校ラグビー部の指導にあたる。その間、全国高体連研究部活性化委員、東京都高体連研究部委員長、東京都高体連ラグビー専門部常任委員などを経験。2002 年 3 月筑波大学大学院体育研究科修了。専門は体育・スポーツ経営学。主に学校運動部活動を研究テーマとしている。2015 年 4 月より現職。著書に、『Change! みんなのスポーツ』（不昧堂、2002）、『日本のスポーツ界は暴力を克服できるか』（かもがわ書店、2013）、『運動部活動の理論と実践』（大修館書店、2016）、『よくわかるスポーツマネジメント』（ミネルヴァ書房、2017）など。



第1部 プレゼンテーション

笹原 皆さんこんにちは。今日は連休の中日で、しかも雨の中我々 NPO 法人サロン 2002 の公開シンポジウム 2019 にお越しいただきまして誠にありがとうございます。本法人の副理事長を務めております笹原勉です。今日の総合司会を務めさせていただきますので宜しくお願い致します。最初に、緊急の場合の避難経路だけ確認させてください。今日は避難訓練の予定はありません。もし警報が鳴りましたら、それは本物です。皆さん、落ち着いて行動をとってください。こちらの前方、後方二か所のドアが避難経路になっております。出て左、皆様が入ってこられた入り口、玄関から避難をお願いいたします。それではお手洗いですけれども、こちら側のドアを出て、正面出てすぐのあたりにございますので、適宜ご利用ください。今日のシンポジウムですけれども、まず我々 NPO 法人サロン 2002 理事長の中塚の方から挨拶をしていただきます。その後シンポジウムを行います。シンポジウムは第一部のプレゼンテーション、それから休憩をはさんで第二部のディスカッション、それから希望者の方は

懇親会と、そういう流れになっております。

それではまず、NPO 法人サロン 2002 理事長の中塚に挨拶をしていただきます。よろしくお願いします。

中塚 皆さんこんにちは。サロン 2002 理事長の中塚と申します。年一回このような形で公開シンポジウムを開いています。今年もワールドカップイヤーということでずいぶん前からこのテーマで準備をしておりました。本当にお忙しい中ビッグネームにお集まりいただきまして、私もワクワクしているところです。少しかお時間を頂戴し、主催者のサロン 2002 が何か、そして会場の桐陰会館がどういうところなのかを説明させてください。

サロン 2002 は、もともとサッカーの研究者の集まりでした。「2002」という名前からお分かりのように、2002 年の FIFA ワールドカップの前から定期的に集まって、月例会をずっと続けていた会です。その当時から言っていたのは、2002 年のワールドカップ以降をどうしていくのかが一番大事だということです。現



薫田氏と徳増氏

在月例会は通算 270 回を超えるに至り、毎月ずっと続けております。新会員募集中ですので是非この機会に御入会いただけたらと思います。月例会の拡大版として年に一度、このような形で公開シンポジウムを開いておりますが、実はラグビーのワールドカップを取り上げるのは二回目です。ちょうど 10 年前、2019 年の開催が決まった時に一度企画しています。今日も非常に楽しみにしております。

もう一つ、この会場についてです。桐陰会館という名の筑波大学附属中・高の同窓会館です。この桐陰会という名称は、嘉納治五郎が名付けました。約百年前の校長先生です。この建物のエントランスに入っていたところの展示をご覧いただけたでしょうか。いま NHK の大河ドラマは「いだてん」です。後半戦に入りましたが、前半戦はだいたいこの学校周辺のことを取り上げていたと言えるでしょう。二階に資料室もありますので、休憩の時にはぜひご利用いただけたらと思います。

限られた時間ですが、有意義なひと時にできればと思います。一つよろしくお願いします。

笹原 ありがとうございます。サロン 2002 の入会案内ですが、皆様のお手元の資料の中に一枚紙が入っていますので興味がおありの方は是非、シンポジウムの間に記入してご提出をください。では早速シンポジウムに入らしていただきます。シンポジウムのコーディネーターである嶋崎の方にマイクを渡させていただきます。

嶋崎 みなさん、こんにちは。サロン 2002 理事の嶋崎と申します。よろしくお願いいたします。まずはじめに、本日の予定についてお話をさせていただきます。お手元の資料の 3 ページに本日の予定が書かれてお

ります。まず、私の方から簡単なお説明をさせていただいた後、それぞれの演者の方に 30 分程度のプレゼンテーションをいただきたいと思います。その後、休憩に入ります。その休憩時間の間に、皆様のお手元にお配りした資料の中にあります質問用紙に質問がある方は、どなたにどんな質問があるということをお書きいただいて、こちらの方にご提出ください。それに従いまして後半のディスカッションで、それぞれの演者の方にご回答いただけるようにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それでは本日の演者の方をご紹介しますと思います。もう皆さん有名な方で改めてご紹介するまでもないと思うのですが、一応ご紹介させていただきます。まずはじめに皆さんから向かって左側、村田亙さんです。村田さんからは、3 大会出場されましたラグビーワールドカップのすばらしさについてお話ししていただきたいと思っております。村田さんのご経歴ですが、これにつきましては 4 ページに書かせていただいております。1968 年福岡県のお生まれです。専修大学 4 年時にキャプテンとして関東大学リーグで優勝されました。卒業後は東芝府中に入社され、96 年からの日本選手権 3 連覇に貢献されました。日本代表としては 91 年、95 年、99 年のワールドカップ 3 大会に出場されています。日本代表キャップ数は 41 です。99 年からフランスリーグのアビロン・バイヨンヌとプロ契約をされ、日本人初のプロ選手として活躍をされ、40 試合に出場されました。帰国後は 2001 年ヤマハ発動機ジュビロに移籍、2008 年 2 月からは 7 人制日本代表監督をされました。現在は専修大学ラグビー部監督で、専修大学は 2014 年に 13 年ぶりに 1 部復帰を果たしました。村田さんどうぞよろしくお願いいたします。

村田 よろしくお願ひします。

嶋崎 お二人目の演者の方です。皆さんに向かって右側です。薫田真広さんです。薫田さんは現在日本ラグビーフットボール協会に所属されてお仕事をされています。元日本代表キャプテンでもあられます。1966 年岐阜県のお生まれです。筑波大学卒業後、東芝に入社されました。ワールドカップは、91 年、95 年、99 年と村田さんと同じ 3 大会に出場され、95 年はキャプテンとして出場をされています。引退後は、東芝府中の監督としてトップリーグ 3 連覇。そして U22 日本代表監督、日本 A 代表の監督を歴任をされ

ラグビーワールドカップ 2019 を語ろう！ 第1部

まして、2013年からラグビーワールドカップ2019戦略室長にご就任されております。薫田さんです。よろしくお願いします。

薫田 よろしくお願ひします。

嶋崎 お三方目です。徳増浩司さんです。徳増さんは現在ラグビーワールドカップ2019組織委員会事務総長特別補佐、そしてアジアラグビー名誉会長としてご活躍中です。皆さんもご存じだと思いますが、茨城県にあります茗溪学園高校でラグビー部の指導にあたられて、第68回の全国高校大会で茗溪学園を全国優勝に導かれました。94年からは、日本ラグビーフットボール協会にご勤務をされております。2003年よりラグビーワールドカップ招致委員会事務局長としてご活動をされ、2009年に招致に成功されました。本日は、2019年ワールドカップ招致の裏話等、いろいろお聞かせいただけたと思います。徳増さんです。よろしくお願いします。

徳増 よろしくお願ひします。

嶋崎 それでは演者の方のお話に移る前にもうちょっとだけお話をさせていただきます。5ページの方をご覧ください。ラグビーワールドカップの歴史をここに記入させていただきました。意外と歴史が浅いのです。第1回は87年です。ちなみにサッカーのFIFAワールドカップは1930年から始まっています。まあ、なぜこのようにワールドカップの歴史が浅いかと言いますと、これはもともとラグビーには対抗戦思想というものがありまして、いわゆるホーム&アウェイで試合をするのがラグビーの試合であると。第3国に集まって大会を行うという発想がもともとなかったのです。イングランド、スコットランド、アイルランド、ウェールズ、フランスで行われていた5か国対抗が、対抗戦の形だと考えられます。そしてラグビーは長くアマチュアリズムを堅持してまいりました。アマチュアですから、ラグビー選手は皆、仕事をしながらラグビー代表活動をしています。長期間の大会に行くというのはそれだけ仕事に穴が開いてしまうということになりますので、なかなか難しかった。そういう事情があって、なかなかワールドカップは開かれなかったと考えていただけたらと思います。しかし、南半球の国々としては俺たちの方が強いのに北半球の国々と試合ができない。これはおかしいじゃ

ないか、世界一を決めようぜ、ということで87年にニュージーランドとオーストラリアの共催で第1回のワールドカップが開催されました。この時の優勝国はニュージーランド。準優勝国はフランス。この時日本は、宮地克実監督、林俊之主将で出場をしております。結果は3戦全敗です。そして、第2回大会。第2回大会は宿沢広朗監督、平尾誠二キャプテンで出場をされまして、ここで52対8ジンバブエに初めての勝利を、ワールドカップ初勝利を挙げております。しかしその後、第3回から第4回、第5回、第6回、第7回まで日本は引き分け2つはありますけれども、1勝もできておりません。特に95年の南アフリカ大会では17対145とニュージーランドに大敗を喫してしまいました。そんな日本代表ですけれども、皆さんの記憶にも新しいと思いますが、2015年のイングランド大会、この時はエディ・ジョーンズヘッドコーチ、リーチ・マイケルがキャプテンということで出場しましたが、なんと南アフリカに34対32でまさの逆転勝利。そしてそれを皮切りに、サモア、アメリカと3勝を挙げている、そして迎えるのがこの2019年の日本大会。ジャパンはJ・ジョセフヘッドコーチとリーチ・マイケルキャプテンで臨みます。日本のグループリーグの試合は、ロシア、アイルランド、サモア、スコットランドです。この辺の展望につきましても、演者の方々から、またお話があるかと思ひます。1枚めくっていただきます。2019年大会の概要についてもお話させていただきます。開幕が9月20日、今日で開幕68日前ということになると思ひます。20チームが5チーム4プールにわかれまして、まずプール戦で総当たりを行います。プールの組分けは下に書かれています。日本が所属しますA組はアイルランド、スコットランド、ロシア、サモアのこの5か国で構成をされています。決勝トーナメントは上位2チーム、8チーム



村田氏

で行われます。決勝戦は11月2日、横浜で行われます。試合のスケジュール等につきましては、次の7ページ以下に記させていただきます。このラグビーワールドカップの特徴は、なんと全国12会場で行われるということです。北は札幌、そして釜石市。震災復興の象徴として釜石市にも新しいスタジアムができました。この釜石市でも行われます。以下、一番南は熊本まで、全国12会場で行われます。ラグビーワールドカップの特徴というのは大会の期間が長いこと、そして、こうして日本全国で試合が行われるということ。海外からも、観戦の方がたくさんいらっしゃるでしょう。そして、その方々が日本各地を訪れて、そして、試合と試合の間には観光をしていく。そういうような経済効果も見込まれるのではないかと考えております。以上、簡単ではございますがラグビーワールドカップについてご説明をさせていただきました。それではさっそく、それぞれの方のプレゼンテーションに移らせていただこうと思います。まずはじめに村田互さんから、よろしくお願いいたします。

3 大会出場の元日本代表が語る ラグビーワールドカップのすばらしさ

村田 よろしくお願ひします。まずは4年前を振り返って、4年前のワールドカップのダイジェストの映像を観ていただきたいと思います。

～～～映像鑑賞～～～

村田 この時私は何をやっていたかということ、大学の監督になって4年目です。3年目に専修大学は13年ぶりに1部に復帰して、4年目にシーズンイン。翌日が流通経済大とのリーグ戦ということで、ホテルに前泊していました。ジャパンの開幕戦、南アフリカ戦はキックオフが深夜だったので、前半だけ観て寝ようかなと思っていたのですが、深夜2時過ぎでしたか、凄い試合をしていたのでもう眠れなくなりまして、これは最後まで観ようと思って観ていました。そして最後勝った瞬間、トライが決まった瞬間に、思わず叫んでしまいました。そしたら他の部屋からもなんか叫び声がするし、お前ら寝てないのか、何を観ているんだと。やっぱり半分くらいの選手たちが観たって言うんですよね。それぐらい熱くなる試合、もう史上最大の番狂わせが起こってしまった。ただし、エディ・ジョー

ンズ、リーチ・マイケルなんかは、いやこれは必然だと。この試合にかけて、この試合に勝つためにしっかり準備して、合わせて戦って勝ったということの後で聞きました。今日は、私も元日本代表のOBとして、私の時代どういう風感じて、どのような戦い方をして、結果どうだったのかというところを話して進めていきたいと思います。お話しした通り、4年前は予選トーナメントの初戦で南アフリカに34対32で勝ち、サモアにもアメリカにも勝つんですけど予選敗退。これはやっぱり2戦目のスコットランド戦、ここでの負けが響きましたね。中3日でスコットランドというのはやっぱり日本にとっては厳しい戦いとなりました。

日本代表

1990年 第12回アジア大会

22歳 初の日本代表 (東芝府中1年目/後に3連覇)

1991年 アメリカ・カナダツアー/アメリカ戦初キャップ CAP1

1991年 第2回 スコットランド戦 初出場 CAP2

1995年 第3回 ニュージーランド戦 出場 CAP4

1999年 第4回 ウェールズ戦 途中出場 CAP24

FRフランス・バイヨンヌに移籍(1999-2001)



私は1990年第12回アジア大会の時、東芝1年目の時に初めて日本代表に選出されました。東芝は後に3連覇するのですが、この時のライバルが、私の一級下の堀越正巳選手です。よく彼とは、日本代表になった時から比較されました。向こう10年間くらい彼とライバル関係でしたが、当時よく世間で言われていたのが「お前はどっち派だ？堀越派か村田派か」みたいな。堀越派というのはしっかりパスをつなぐ、パス役、村田派というのはサイド攻撃をする、そういう感じで比較をされていました。私が初めてキャップをもらったのが、翌年のアメリカ、カナダツアーですね。この時に初戦のアメリカ戦で松尾勝博さんというワールドで同志社OBの方とコンビを組んで初キャップを獲得しました。その後カナダに移動してカナダと2試合、合間にバンクーバーの州代表と試合をしたのですが、実はこの時に初めて平尾さんとコンビを組みました。平尾さんは確かこのツアーのキャプテンだったんですけど、この練習試合でも、普段はあまりしゃべれない人だったのに、この試合で初めて9番10番を組んだのです。これは僕にとってはワクワクドキドキ、

ラグビーワールドカップ 2019 を語ろう！ 第1部

どっちかっていうと、ワクワクだったんですよ。どういうリードをしてくれるのか。でも試合はあっという間に終わりました。平尾さんとコンビを組んだのはそれが最初で最後だったんです。ちょっとその試合を思い出しました。ワールドカップ、私は91年、95年、99年の3大会に出場しました。見ての通り91年の時にキャップ2なんです。代表2試合目でいきなりワールドカップ、スコットランド戦です。それから4年が経ち、95年のワールドカップ、ニュージーランド戦に出場するのですが、代表キャップ4試合目。だから4年間で1試合しか代表戦に出場してない。なぜかという、自身の怪我もありましたけど、ライバル堀越選手がずっとレギュラーだったんですよ。しかし、95年から99年の4年間ではキャップが20増えています。ここの3年間は私がずっとレギュラーで出ていたということになります。そのあとフランスのバイヨンヌに移籍することになるのです。

ワールドカップ日本代表、91年のスコットランド戦で宿沢監督から初戦は村田でいくと。これ3日前くらいに言われました。なんとなく練習で僕は先に入るシーンが多くなってきていて、堀越選手が後から入るというシーンがあって。部屋も堀越とは一緒なんですけど。お互い会話が少しずつこちなくなってくるんです。ご承知の通り、「これ、宿沢さん俺でいくんじゃないかな」と僕はそう思って、堀越は「まさかこれ、村田さんでいくのか」とそういう心境。3日前に私が先発ってなった時に、これは凄いことだと。いや俺で大丈夫か？「絶対やってやる。みせてやる。」そういう気持ちでいっぱいでした。堀越は堀越で、一緒に部屋で、「村田さん頑張るって」っていう感じで、やっぱりお互いがそういう雰囲気なんですよ。もう同じチームなんで、チームとして活躍してほしいという思いがある。でも内心は絶対そうは思ってないです。なぜ村田さんなんだ？といった気持ちがあったはずなんです。僕もそういう時期はよくありましたから。だけど、戦いが始まると違うんです。堀越はもう3年前から代表で、2年前の89年にも日本でやった時にスコットランドに勝っている。ジャパンが5ヶ国対抗チームに初めて勝った。その時のスクラムハーフが堀越。その試合、私はもう秩父宮の上の方で見ていたのですが、その時からもう、俺も絶対日本代表になると思っていました。さて、ワールドカップ初戦、いざ試合が始まります。7万人近く入ったマレーフィールド。絨毯のような芝生で、もうスパイクが見えない。それくらい深い芝生で。いきなりキックオフ飛んできました。ナ

イスキャッチをして、なぜか僕が右のサイドラインのほうに持ち出しました。ライン側を多分いけると思ったんでしょう。そしたらもう壁が2枚くらいきてヤバイ！と思って、僕左利きなのに右で蹴ったんです。それが良いキックになった。これはもう、絶対この試合はいける。前半はなんとか食らいついて9対17。相手のスコットランドは、前の年に5カ国で優勝、ものすごく強かったです。91年のスコットランドは準決勝まで進出、3位のチーム。そのチームに後半はいかれました。でもこれは、私が3大会戦った中でのベストメモリーですね。スコットランド戦80分間戦った。実はこの試合で顎を亀裂骨折していました。2戦目のアイルランド戦。3戦目のジンバブエ戦は堀越でいって、アイルランドに16対32、善戦してジンバブエには52対8で勝利。嬉しかったですよ。嬉しいんですけど、それ以上に悔しかったです。なんで出してくれないんだ。初戦まあ少しはできたかな、位だったのですが。当時言われたのが、日本のメディアは、なんで初戦堀越でいかなかったのかと。現地のメディアは、なんで2戦目3戦目は村田でいかなかったのだと。それを聞いたのが宿沢監督で、宿沢さんからもスコットランド戦終わった後に、「村田よかったぞ」と。「試合は負けたけど、プレーはよかった」と。で、翌日の新聞や海外のメディアから、スクラムハーフよかった、ということを言われました。宿沢さんにはスコットランドのクラブからオファーが来ていると。それはもう本当その気になって、当時の東芝の監督さんにも、こっちでやらしてくださいと、そんなことを言っていました。

ワールドカップ日本代表

1991年 第2回 スコットランド戦 初出場

宿沢監督初戦スコットランド戦に抜擢／フル出場 試合後地元クラブからオファーも、2-3戦目は堀越 ジンバブエ戦ワールドカップ初勝利！

1995年 第3回 ニュージーランド戦 出場

小藪監督 予選敗退 3戦目NZ戦に出番あり KO5分後からトライラッシュ 17-145 歴史的敗北...／フル出場 ヨハネスブルグ危険

1999年 第4回 ウェールズ戦 途中出場

平尾監督 3年間レギュラーもNZ代表SHバショップ3戦先発 3戦全敗 第2戦終盤に14分間出場／ドーピング検査有り



4年後、95年ニュージーランド戦に出場。初戦、2戦と堀越、平尾のコンビでいき、予選敗退が決まり。3戦目は私と廣瀬佳司でと、いよいよ出番が来ま

した。廣瀬とちょうど同じ部屋だったので、廣瀬やるぞ、やるしかないぞ、と。2人でこう、何をやるかと決めながら。いざ試合が始まりました。会場は南アフリカブルームフォンテン。標高 1,600 メートルくらいあります。菅平みたいな感じで。もう 2 週間くらい前から入っていましたので身体的には慣れてはいましたが、空気は薄く感じていました。何が高地で起こるのかというと、まずボールが飛ぶんですよ。だからキックも飛ぶ。芝生自体はどっちかというとイギリスと違って少し走りやすいような、短めの芝だったんですけど。通用したのが最初の 5 分です。最初の 5 分、実はゴール前まで攻めました。ニュージーランド戦、左中間ゴール前スクラム 5 メートル。もうこれ俺のサインだ。左 8、9 だ。エイトのラトウにタッチして左に僕がムーブして、ボールをパスしてもらって。いつもだったらパスするフリをしてまっすぐ行けばトライになっていたかもしれないけど、そこで一瞬迷ったんですよ、左には吉田義人がいる。もう吉田に託そう。そこで吉田にパスしたら、パスと同時に吉田が 1 対 1 になって、やっぱりかわせずにタックルされて、ターンオーバー食らって。僕は、あそこが僕の中ではターニングポイントだったのかな、と。なぜあそこ自分で強引にできなかったのかと。1 ヶ月後くらいに自分でニュージーランド戦をビデオで観たんですよ。これいけたじゃない。なんで日本の時のようにいけないんだ。自分を責めました。じゃあなぜ 1 ヶ月後に観たかということ、もうやっぱりその後結果が、ああいう結果だったので僕自身、もうラグビーダメだと。日本弱い。帰りたいくない。帰って府中のジュニア教へに行ったら時なんか、お疲れさんみたいなこと言ってくれるんだけど、なんかみんなの表情が、目が笑っていない。すごいみんな、やっぱりみんなよく思っていないだろうなーとか思いながら、1 ヶ月後くらいに、これじゃダメだと。それでビデオを観たら、個人的にはそれほど悪くはない。だけどミスはしている。ミスはしているんだけど、最後まで諦めずに頑張っているじゃないかと。少しはやれていたじゃないか。そういう風に思えたので、開き直ってラグビーやるようにしました。思えばこの試合を皮切りに私が日本代表のレギュラーとなっていました。その年に山本巖さんが日本代表の監督になって、その時にエディ・ジョーンズとグレン・エラーとオーストラリアの 2 人のコーチを連れてきたんです。あのエディ・ジョーンズを。エディーさんは熱かったですね、あの時から。フォワードに対して凄く熱くて。その年から私もエディーさんと関わ

るようになって、良い評価をされるようになりました。日本代表キャップも 20 を超えて 99 年、第 4 回ウェールズ戦、結局最後はこの試合の途中出場で終わってしまったのですが、私は前の年アルゼンチンに勝ったり、カナダにも勝ったりして調子も良かった。しかし、少しずつ怪我をするようになっていたんですね。その時の平尾監督に言われたのが、やっぱりしっかり体調を管理しないとこの先厳しいぞと。そしたら 99 年、ニュージーランド代表のグレアム・バショップが来てしまいました。ああこれは史上最大のライバルが来たなと。もう彼に勝たないと俺はレギュラーになれない。せっかく 3 年間レギュラー張ってきたのに、ワールドカップだけ出場できないのは絶対嫌だと。その年の春のパシフィックリム選手権、私は 3 試合ずっとリザーブで、4 戦目にチャンスが回ってきました。ハワイでのアメリカ代表戦です。それまでは 3 戦全勝で日本は当時強敵だったサモアにも勝っていました。アメリカに勝てばパシフィックリム初優勝が決まるというこの大事な試合に、バショップがご婦人の出産でニュージーランドに帰国。これはチャンスだと。この試合で見せるしかない。組んだのが廣瀬佳司。廣瀬には前日同じようにこうしよう、ああしようというのをやりながら、試合ではプレビュー通り見事にはまりました。とにかく俺はキックしないから、どんどん展開するからということ。だからお前も展開しろと。あまり蹴るなと。そんなことを多分言っていました。4 戦目のアメリカ戦は両ウイングがトライを量産。増保と大畑で 7 トライ。私自身もトライはなかったんですが、パス回しやアシストで貢献し、その試合 47 点も取って快勝しました。ここでよかったのは、平尾監督にもう一つオプションあるよということ、自分なりには見せることができたかなと。そのあと壮行試合のスペイン戦、スペインの代表戦でも、その時のスタンドオフは岩渕なんですけど、江戸川でやった試合で日本選抜チームは 60 点くらい取って快勝。翌週の日本は 30 点くらいでの勝利にちょっと固くなっていましたね。村田を出せば点取れるぞ、と。そういう風に言わせたかったんです。だけど、やっぱり最終的にはバショップの方が堅い。手堅い判断。やっぱりこれは当時の世界レベルで、点を取らせなくて、ロースコアで勝とうという意図、プランがあったからだと思います。試合は最後、2 戦目のウェールズ戦残り 14 分しか出場できませんでしたが、ミレニアムスタジアムの約 6 万人の中で、もう相手の歌でもプレーでも雰囲気にも圧倒されました。だけど、そこでラスト

ラグビーワールドカップ 2019 を語ろう！ 第1部

14 分間 8 番 9 番が伊藤剛臣、村田互。最後に日本人で 8-9 組めたことは今でも誇りに思えますし、たった 14 分しかなかったのに二人で大ノックオンを一回ずつしたというおまけもついて。最後の最後まで諦めずに連続攻撃を仕掛けてロックの田沼に渡って、彼が捕れば目の前はトライラインだったのに、落としてしまって。ふざけんなー、と思いました。彼は今日体大の監督をやっています。あの田沼がトライさえとってくれてれば、僕も少しは報われたと思いますが。田沼に会うといまだに言う時があります。「やっぱりお前あの時トライ取らなきゃダメだ」、と。

強豪フランスFR どんな国？

笑顔・みんなとあいさつ
握手の文化・ラテン系
あかるい・温かい・親切
バスク地方 ■■■ バスク語
温かい・親切・お洒落な格好
自己主張/自己主張
税金・言葉(仏)の問題・いいわけ
自己中心的・反則(パンチ)多い

★W杯4回準優勝,NZに2回勝利



日本人初 仏プロラガー

W杯1ヶ月後フランス・バイヨンヌに移籍 2シーズン

公式戦 **40試合出場**
仏でスクラムハーフは“司令塔”

仏ラグビー新聞 ミディ・オランピック紙

17試合に優秀選手



そのワールドカップが終わった年に、フランス・アビロン・バイヨンヌに移籍。フランスリーグ日本人初のプロ第一号として 2 シーズン、公式戦に 40 試合出場しました。渡仏当初、たまたまキャプテンのスクラムハーフ、ミッキーマイヨーというチームのエースが怪我をして、翌週お前出ると言われて、デビュー戦になったのが渡仏 10 日目、試合開始 10 分で自ら 2 トライ連取。それでそのままレギュラーを勝ちとったという 2 シーズンでした。フランスは本当に僕をさらに成長させてくれました。フランスで成長できたのも、

その前の年にワールドカップに出てバショップと争った。ここではレギュラーにはなれなかったけど、そこでレベルが上がったからフランスでも活躍ができたのかなと思います。フランスではミディ・オランピックというラグビー専門の週刊新聞があり、私は 40 試合中 17 試合で優秀選手として選んでいただきました。フランスってどんな国。強豪ってというのはわかっているんですけど、実はワールドカップ 9 大会中、4 大会決勝にいます。そしてニュージーランドには 2 回も勝っている国。私が行っている地方というのは、スペインの真上のバスク地方。アビロン・バイヨンヌというチーム。本当にみんな笑顔で仲良く挨拶をする。握手をする文化なんです。必ず握手、部室、練習前に部室に行き、ボンジュール、コモンサバ、だけじゃだめなんです。フランスの場合は入って 20 人いたら、20 人全員と握手をしなくちゃいけない。そういう国なんです。南仏、下の方なので明るいし、気候もいいし、あったかいし。バスク地方ということでバスク語とかも喋れるようにしなくちゃいけない。フランスでボンジュール、こんにちは、がバスク語ではミラシュケン。これ全然違う。右、左が「アドワット」「ゴージュ」だったら、バスク語だと「バイ」「エス」だったり。だから電話出る時も「ウィ」じゃなくて「バイ」なんです。あとはフランスにいるとき税金が高かったなあと。給料の 4 分の 1 以上は持っていかなければならない。他には言い訳ばかりします。トライされると、いきなりインゴールで言い訳大会が始まる。で、なぜか最後に、ワタがあそこで・・・、ワタじゃないかと。僕のせいにされちゃう。僕は 1 年目あまりフランス語が喋れなかったのも何も言い返せない。2 年目からヘッドコーチが変わって、ワタのフランス語が全然上達しない。ということで英語禁止令が出て、そこからフランス語が喋れるようになっていきました。20 年前のフランスリーグは相手にやられたら絶対にやり返す。当時イエローカードとかレッドカードとかじゃなくてフランスでは、フランス特有のホワイトカードというものがありまして。要はパンチをやり返したらホワイトカード。2 人とも 10 分間退場と。色が違うだけで、同じようにシンビン制度が行われていました。私が最もフランスで影響を受けた人がこの方、ジャン・ピエール・リーブ。元フランス代表の主将。「ラグビーは少年をいち早く大人にし、大人にいつまでも少年の心を抱かせるスポーツだ」と名言になったこのフレーズ。僕はまさに今その心境です。未だに専修大学ラグビー部指導するときに、一緒に走ったり、一緒

にウェイトしたり。一緒にタッチフットまではしませんけど、やっぱり教えていて楽しいんですよ。ラグビーふっと終わると戻るんです、監督に。やっぱりラグビーって遊び、楽しいものなんですよ。スポーツはフランス行ってすごく楽しいし楽しむものだ。フランスだけじゃないんですけど、本来スポーツって楽しむものじゃないのかな、ということを、改めてフランスで学んだのかなと。フランスに行く前までは、試合の1週間前位前から緊張していた。こうしよう、ああしようというのがあったんですけど、フランスでは毎週のように試合があるあったので緊張をする暇もなかったんですよ。ギリギリまでリラックスして、当日も2時間前までにマインドセットすればいいやと。そういう風にしてから僕自身もなんか、オンとオフの使い分けができるようになりました。

ラグビーワールドカップ

見どころ A組予選：日本代表戦！

JPVS ロシア(9.20)、JPVS アイルランド (9.28)

JPVS サモア(10.5)、JPVS スコットランド(10.13)

- ・ A組 ①アイルランド ②日本、スコットランド = 日本スタイル！
- ・ B組 ①ニュージーランド ②南アフリカ = 文句なしの2チーム
- ・ C組 ①イングランド ②フランス、アルゼンチン = 独自のスタイル
- ・ D組 ①ウェールズ ②オーストラリア、フィジー = 6ヶ国対抗王者

反則をしない、規律を守る



いよいよワールドカップです。見所、初戦が大事ですね。ロシアにはしっかり勝ってほしいですね。アイルランド、サモア、スコットランドとすごい強豪が集まっていますが、私の勝手な予想です。見ての通りA組、アイルランドと日本にしています。スコットランドに勝って、日本は2位で通過したい。気持ちは1位通過です。B組、ニュージーランドと南アフリカ。C組、イングランド、フランスでは。D組、ウェールズ、オーストラリア。このベスト8でいてほしいなと。日本やらなきゃいけないこと。反則をしないこと。そして、規律を守ること、だと思います。先ほど嶋崎さんから楽しみ方というのがありましたけど、これはやっぱり世界三大会の1つなんですよ。リオが17日間。ロシア大会、サッカーが32日間。ラグビーって44日間。1ヶ月半もあるんですよ。1ヶ月半外国から日本に何十万人という方が押し寄せてくると言われています。まあ、経済効果が4300億とも。もっと大変なのがビールの消費量。これ同じ会場、だから4

年前の同じ会場で開催されたサッカーの試合の平均6倍。ひたすら飲み続ける。だからちゃんと麒麟さん、サッポロさん、アサヒさんにビールを用意してもらうようにしないと、と思います。最後に、専修大学の大学選手権出場と日本代表の初ベスト8を祈念して、私の話はノーサイドといたします。ご静聴ありがとうございました。

嶋崎 どうもありがとうございました。本当に楽しみですね。ビールの消費量の件ですが、私は横浜のスタジアムの側に住んでいますが、近所の商店街のおじさんの話を聞きました。商店街の集まりで、ビールをたくさん用意しておくようにというお触れが出ているそうです。それぐらいビールの消費量については、枯渇させないようにということで話題になっているようです。村田さんありがとうございました。

～～～拍手～～～

嶋崎 やっぱりワールドカップに出場をされた方のお話は違いますね。薫田さんも同じですね。3大会出場、キャプテンとして出場されたということで、その経験を生かして日本代表の強化を担当していただいたのが、この薫田さんということになるかと思います。それでは薫田さんの方からプレゼンテーションをお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。』

RWC2015 南アフリカ戦の勝利から 日本は何を学んだのか

薫田 みなさんこんにちは。薫田と申します。まず初めに、このような機会をいただき誠に有難うございます。今日私のセッションは、前回2015年RWCよりこの4年間でどの様に日本ラグビーが変わったのか、どの様な強化をしてきたのかということを現場目線で少し話をさせていただきたいと思っております。まず、先程村田さんの話にもありましたが、実際初戦の南ア戦、エディー、チームは本当に勝ちにいきました。なぜ勝てたのか？その前にこの“8741日”、これ何だと思われますか？実は1991年第2回RWCでジンバブエ戦の勝利から、2015年第8回RWC南ア戦の勝利までの日数です。カナダと2回引き分けを挟んでおりますが、RWCで2勝するまでここまでの日数を要しました。改めてRWCとは特別な大会です。

ラグビーワールドカップ 2019 を語ろう！ 第1部

そんな特別な大会で南ア戦に勝てた理由は、エディーが選手のマインド・意識を「世界で勝てるマインド」ポジティブなマインドに変えたという事です。そして、この後半 40 分過ぎラストワンプレー、3 点差で負けているシーンです。南アは試合前からそして後半 30 分過ぎのペナルティーキックで追加点を取るまで、日本を完全に舐めていました。舐めていたと言うより、正解はピーキングを初戦の日本戦ではなく、3 週間後の決勝トーナメントに照準を合わせていたと言う事です。それを理解した上でエディ・ジョーンズはこのゲームに臨んでいたと思います。それが、最初に申しました選手のマインドを変え、相手の心理状態も読み切り、後半勝負に持ち込んだ、エディーの読み勝ちでした。サインプレーも村田さんの映像にもありましたが、バックスの沢木コーチとエディーが何回もぶつかりながら、どこに誰を入れるんだ？という綿密に議論を重ね、2 トライを取りきった。テストマッチで勝たせられるコーチは優秀なコーチ。RWC で勝たせられるコーチは特別です。但し、性格的に変わった人が多いですが！（笑い）

実際、勝つ為にどれだけか労力と準備をするかが非常に大事です。準備した戦術、そして南ア戦に勝つと言うメンタリティーのもと、後半 30 分まで我慢した日本代表。その時、日本はペナルティーをゴール前正面でおかしましたが、南アはゴールキックを選択しました。これは、今までティア 2、格下と思い戦ってきた日本に対し、普段自分たちがティア 1 国と戦ってるくらいプレッシャーを感じた、「勝たなければならぬ。勝ちを意識した、」瞬間だと思います。それまでの南アは「何をやっても勝てる、負けるはずがない！」と思っていたはずで、日本サイドから考えると残り時間やそれまでのドライビングモールでのプ

レッシャーを考えると、ラインアウトからドライビングモールを組まれた方が嫌だったと思います。そうではなく南アはティア 1 と同じような戦い方、マインド、ゲームプランを変更して勝ちにこだわった戦い方をしてきました。その判断をさせた事がこの試合の 1 番、エディーの思惑だったと思います。そして、この年キャプテンのマイケル・リーチがスーパーラグビー、NZ のチーフスでプレーしておりました。私はその時東芝の総監督のポストに就いており、帰国後彼に「チーフスで何を一番学んできたか？」と質問しました。彼は即答で、「リーダーたるもの、それは監督、キャプテンも同じです。リーダー同士お互いが正直であるべき。」その影響もあり、その後リーチの行動、発言が自主性から主体性となり、チームのキャプテンであった廣瀬、そしてリーチを中心に選手たちが変わっていきました。メディアでもそれまで色々なガティブな記事も出ていた通り、8 月までチームは正直あまり良くない状態でした。220 日を超えるキャンプで選手、スタッフともに限界まで追い込まれていました。選手たちの主体性が、このラストワンプレーのスクラム選択からトライを取りきった結果に繋がったと思います。そして、日本のラグビーが大きく変わった瞬間でした。普段私がチーム、組織、特にラグビーと言う独特の競技に当てはまる言葉かもしれませんが、「個力を磨き、組織力を高める！」ということが非常に大切だと思っています。その為に「心・技・体」ではなく「知・体・心・技」、先ず知力がなければ選手は決して育たない。知力を上げさせる為に選手をどう成長させるか、コーチはその手法が大切。その一つにビジネスの世界でも同じですが、あらゆる面で視覚化・数値化を行う事。チームが勝利するためのウイニングスタッツを選手に提示し、それをどう理解させ、

ゲームで判断させるかが重要です。また、リーダーシップも重要なポイント。エディーが日本代表 HC 就任当時の 2011 年、日本の現状を変えるためエディー流のコーチング、強化のプロセスがトップダウンでした。上から戦術、戦略すべて管理するというのがエディー流のやり方です。先ほどのコーチ達も、毎日追い詰めるほどのトップダウン方式

One Team Culture（強いチームとは？）

個力を磨き組織力を高める！

- ・ 知・体・心・技
- ・ テクニック<スキル<戦術・戦略<パフォーマンス(結果)
- ・ 平均点の選手を作り上げない。選手の長所を伸ばし、喜びと可能性を追求。

戦略は大胆に戦術は緻密に！

- ・ 視覚化、数値化(ウイニングスタッツ)
- ・ 直観を磨く(リスク&ハイリターン)
- ・ リーダーシップ(キャプテンの存在感とコミュニケーション能力:聞く耳)
- ・ シンプルメッセージ

マインド設定・マインドセット（意識を変えるには）

- ・ 自己犠牲の精神 (One for All, All for One) 【 One Team Culture 】
- ・ 準備にどれだけの時間と労力を費やすか？そのタイミングマネジメントの重要性
- ・ No Side の精神 (Respect: 尊敬、Integrity: 誠実・真摯、Discipline: 規律)

です。RWC2015 で結果を残しましたが、同じ手法、エディ体制で 2019 年に向けた次の 4 年間を迎えられたかという、多分相当厳しかったと思います。当初 2019 年まで日本代表の指揮をとるはずだったエディーが、2015 年 8 月に RWC2015 後日本代表監督を退任すると発表し、イングランド代表 HC に就任が決定し、チームも落ち着きました。それでも、それまでのツケは大きく、3 勝した RWC2015 後、選手はバーンアウト状態。リーチも休みがなく、あらゆることを犠牲にしてきたそのプレッシャーから解放された瞬間、とても RWC2019 に向けて直ぐマインドを変えられなかった。2016 年 6 月のスコットランド戦も多くの選手が辞退しました。IRPA、インターナショナルラグビープレイヤーズアソシエーション。いわゆる国際選手会です。これが 1996 年に世界的にプロ化となり、試合の強度も高まり、選手の待遇、ウェルフェアも大きく議論されるようになりました。日本でも JRPA、ジャパンラグビープレイヤーズアソシエーションが設立し、日本協会と JRPA が向き合う機会が増えてきました。そんな中にありジョセフは、RWC2019 に向けトップダウン方式から、選手、リーダー中心、リーダーから横展開する強化方針に変更し、リーダーの知力を高めることに時間を費やしました。また、日本代表の様なコンバインドチームになればなるほど、準備に時間を要し、その精度が結果に反映されます。RWC2015 で南アに勝利したのも、正に準備勝ちし、単純に選手のマインド、メンタル、そして戦略・戦術が世界ランキングではなく、試合当日南アより日本の方がチーム力が上だったという事。RWC とはその日強いチームが勝つ、そんな大会です。

ジャパンスマート、賢さも大切です。RWC2015 は「世界の TK」、総合格闘家の高阪剛さんに来てもらい、小さい日本人がダウンスピードを速く、いかに相手の懐に早く入れるか？ タックルテクニックも磨きました。いわゆる、目線の合ってる状態からいかに消えるか？です。

賢さを磨くため、世界基準のマインドにするために、世界トップで戦っている他競技の方に来ていただき、講話を聞きました。その一人が室伏幸治さんです。2018 年 11 月のオールブラック戦前でしたが、「世界で勝つためには、日々全力でやり遂げ、後悔するな!」。二つめが、「ゲージに入った時は無だ!」と、言われました。「無」になるとはどういうことか、日々のトレーニングでコーチから言われたことだけではなくて、自分でしっかり考え、無心になれるくらいやり切った状

態でゲージに入る。先程の準備と結びつくと思います。選手、コーチ同様、マネジメントスタッフも試合で勝つためにグラウンド内外での準備が必要です。即ちマネジメントの準備は環境作り・環境整備です。



視覚化についてご紹介しますが、皆さんよくご存知のゴルフカートです。これにモニターを付けて、上からのドローン映像を飛ばし、グラウンド上ですぐに確認する。キッカーが後ろから蹴ってるシーンで、軸がぶれたね!とか、フォームの確認を瞬時に行う。実はウエイトトレーニングも同様、ジムの中でも、フィットネスのデータも視覚化しておりました。

データについて一つ参考に、2018 年 6 月のイタリア戦も 2 試合テストマッチを行いました。第 2 戦の時は瞬発系のトレーニングで過去最高の数値を出している選手が大半でした。サンウルブズからの流れもよく選手のコンディションは上り調子。ティア 1 のイタリア第 1 戦に勝利し、コンディションも良く連勝に期待していましたが、第 2 戦目敗戦。では、なぜ状態がよかったのに連勝できなかったのか？課題が見つかりました。過去のテストマッチを振り返りましても、連勝、若しくはティア 1 と好ゲームをしても、翌週の試合内容に問題があることに気付きました。いわゆるハードなゲームを何試合も戦う、一貫性を持って数試合を戦いきるメンタリティーとフィジカルストレングスがまだ足りないという事です。今回のワールドカップでも、4 連戦、初戦のロシア戦は、サイズの大きなロシアがフィジカルゲームに持ち込んできます。初戦の開幕の入り方が非常に大事。第 2 戦がアイルランド、その次のサモア、スコットランドです。目標の決勝トーナメント進出を果たすためには、4 戦とも最高の準備、メンタリティー、そしてリカバリーの精度が求められます。外国人選手、スタッフもチームに多数いる為、外国人メンタルコーチも 6 月からチームに合流してサポートしてもらっています。

開幕まで残り約 2 ヶ月になりました。7 月 27 日

ラグビーワールドカップ 2019 を語ろう！ 第1部

PNC（パシフィックネーションズカップ）が開催されます。開幕までのプレマッチはPNCの3試合と9月6日の南アフリカ戦のみです。特にPNC初戦のフィジー戦は非常に重要なゲームとなります。フィジーも2週間程前ホームでマオリオールブラックスに圧勝して調子を上げており、現在の日本代表のレベル、ベンチマークする為には絶好の相手です。サイズ、スピードと申し分のないフィジカルラグビーとフィジーらしいハンドリングラグビーで調子も上がっており、脅威となるはずですが。27日は釜石市で行われ、みなさんご存知かと思いますが新しい鶴住居復興スタジアムで行われます。そういう意味では注目されるゲームになるかと思います。

マネジメントサイドの準備としては、グラウンド外の環境を整え、選手、スタッフが気持ちよく準備、ラグビーを行える環境を整備する事です。これはSR（スーパーラグビー）でよくみなさんが見られるロッカールームの映像です。このサンウルブズのロッカールームで、もう一枚はハーフタイムか、試合前のニュージーランドのSRチームのロッカーですが閑散としています。日本代表のロッカールームをお見せしますが、サンウルブズのシーズンが6月一旦テストマッチ期間に入る為、チームマネージャーが日本代表のマインドに切り替えられる様、ロッカールームを毎試合日本代表仕様に変更します。日本代表とサンウルブズはスタッフ、選手もほぼ同じメンバーで活動している為、日本代表とサンウルブズの差別化を図る為に視覚に訴えています。いわゆる、選手に我々はサンウルブズではなくナショナルチームなんだ、国を背負って戦う、テストマッチは必ず勝たなければならない！それをしっかり意識させるために、毎試合準備します。後半のジャージも全部揃え、準備されております。また、One Team Cultureとして活動期間中はどこのホテルでも甲冑をミーティングルームに準備しております。もう一体、ダースベイダーみたいな黒いやつ、悪のやつもいるんです。ジョセフHCは絶えず視覚にOne Teamを訴える様、グラウンド内外で絶えずOne Teamがイメージできる様な環境作りをマネージャーに求めています。

最後に、開幕までの残りの日数を考えますと、読売ジャイアンツの元監督川上哲治さんの言葉ですが、「真剣な時ほど知恵が出る。中途半端は愚痴が出る。」勝てないチームっていうのは、ネガティブな思考となり、基本的には受け身。組織が自分に何もしてくれないというマインドになってしまう。勝てるチームって

うのは、ポジティブ思考で常に組織に対して自分が何ができるか？、絶対に知恵しか出てこない。中途半端で人のせいにする、そういうチーム状態の時は絶対愚痴しか出てこない。ラグビーの代表的な精神、「One for All, All for One」再度見つめ直す大切な時期に入ってきました。

余談ですが、ラグビーのゴールキックをHポールの上、クロスバーの上を通さなければならない理由をご存知の方お見えになりますか？これは2015年のRWC時に英国のパブリックスクールのラグビー校（ラグビーのルーツ校）に行ってきました。ラグビー校の資料館で館長に全く同じ質問をしたんです。館長からの答えは古い文献、絵画が飾ってあり、これを見て下さい！でした。その絵画はグラウンドの中で両軍100名ほどの選手がラグビーをしており、インゴール内いっぱいファンが描かれていました。当時はゴールライン上までファン、応援が押し寄せていた為、Hポールの下を通してよくわからないし、危険な為、キックを上を通さなきゃならなかった。と館長がおっしゃっていました。本当かどうか知りませんよ。（笑）それが何となく本当、真実かな？、と私は思っております。

私からは以上となりますが、ラグビーの素晴らしさ、ラグビーワールドカップ開催の意味が分かり易い映像がごございます。是非ご覧頂きたいと思います。

～～映像視聴～～

【薫田】 ご静聴いただき有難うございました。一点だけお願いがごございます。先程、パワーポイントを携帯で写真撮られた方もお見えになりましたが、SNS等へのアップはご遠慮願います。あくまで個人用として管理をお願い致します。どうぞご理解の程宜しくお願い申し上げます。ありがとうございました。

～～拍手～～

【嶋崎】 はい、薫田さんどうもありがとうございました。今日は、科学的なデータを用いて、ここまで準備をしてるんだということをお話しいただきました。データの視覚化、そしてメンタル、そういうことも含めてここまで準備をされていることがわかりました。ワールドカップが、また楽しみになってきたなと感じます。薫田さん、どうもありがとうございました。

～～拍手～～

アジアラグビー協会名誉会長が語る RWC 2019 日本大会招致の舞台裏

※演者の希望により発表内容をまとめたもののみを掲載する。

徳増さんからは、「ラグビーワールドカップ 2019 日本への招致について」というタイトルでプレゼンをいただいた。

きっかけは、2002 年のサッカー FIFA ワールドカップが日本で開かれたこと。翌年からトップリーグが開幕するのだが、いま一つラグビーが盛り上がっていなかった。そんな中で日本ラグビーフットボール協会は、ワールドカップを招致することを決めた。当時、国際招致活動を行ったことのある人はほとんどおらず、未知の世界に一人で飛び込むような、きわめて孤独な難事業であった。もともとワールドカップは、伝統国を4年に一度、北と南で交互に開催されるようになっていた。

わずか半年で招致概要ファイルを作成し、それを携えて世界各地を回った。その時のスローガンは、「Fresh Horizon」(新しい地平線にラグビーを持っていく)というものだった。

日本、南アフリカ、ニュージーランドの三つ巴の戦いを制したのはニュージーランド。かくして、2011 年大会の招致は失敗に終わった。

その後、アジアラグビー協会 32 カ国のみなさんに「招致は難しかった」と謝りに行った席で、「日本でぜひもう一回やってほしいんだ。アジアのみんなで応援するから」と言われたことがきっかけで、もう一度招致活動を開始する。

2 回目は、南アフリカ、イタリア、イングランドと日本が立候補。IRB から、2015 年はイングランド、2019 年は日本という推薦案が出されたが、これにも南アフリカをはじめ反対勢力が動いていた。2009 年に行われた投票の結果は 16 対 10 でやっと 6 年がかりで招致が決定。アジアの国々からお祝いのメールが続々と届いた。

日本開催が決まったその 3 か月後の 10 月にセブンズがオリンピック種目になった。日本がワールドカップを開催することで、IOC にもラグビーが国際スポーツだと認められた。

招致活動を通じて学んだことは、基本的には「個

と「個」の信頼関係が大事だということ。日常的に「関係を耕す (cultivate)」ことが大事。あとは、「相手からどう見られているか」を意識すること。

最後に、「ラグビーワールドカップが日本に来て、本当に良かったと、みんなから言われるために、日々を過ごしています。」と話を結んだ。

～～拍手～～

嶋崎 徳増さんどうもありがとうございました。招致の苦労話、裏話等も聴けて、ますます楽しみになったなと思います。これから 15 分ほど休憩を取りたいと思います。





第2部 ディスカッション

嶋崎 それでは再開したいと思いますので、よろしいでしょうか。皆さんお席のほうにお戻りください。それでは第二部を始めさせていただきたいと思います。まずはじめに、演者の方々のほうから。ここにいらっしゃる3人の演者の方々は、実は1995年のワールドカップの南アフリカ大会に皆さんいらっしゃっているわけです。薫田さんはキャプテンとして、村田さんは選手として、そして徳増さんはメディアスタッフとして参加をされていたということで、共通項のおありの3人が今日は偶然ここで出会いになったということなのですが、その辺りの南アフリカのお話し等を、徳増さんのほうから先ほど時間がなくてということで、付け足していただけるとありがたいと思います。はい、よろしくお願いします。

徳増 さきほど村田さんの話を聞いていて、一つ付け加えさせていただきます。選手を弁護するわけではないんですけど、オールブラックスに大敗した試合の後のファンクションで、タッチジャッジのエド・モリソンさんという方が、「今日の試合はアマチュアがブ

ロと試合したということだよ」って言ったんですね。最初は意味がわからなかったんですが、実はこのワールドカップがあった1995年に、ルパード・マードックっていうオーストラリアのメディア王がラグビーをプロ化するために選手と水面下で契約を始めていたんですね。だからオールブラックスの選手は、契約をする前なので最初のキックオフからノーサイドまで全力でまったく手を緩めなかったんですよ。だから普通であればある程度点を取ったら次の試合のため少しテンポを落としたりしますが、あの時のオールブラックスが手の付けられない状態になっていたというのは、その水面下でプロ契約があったからです。あの年の9月にIRBがラグビーのオープン化、つまりプロ化を認める決定をしました。つまりその直前のワールドカップだったんですね。ほかの国の、とくに南半球の強豪国がプロ契約しようとしているときに、日本代表がその中で戦ったということがあったと思います。私はあの試合を見ている時に、この国たちがプロ化になってしまったら日本は将来どうなってしまうのだろうと思ったのを覚えていますけれども、そういう中で、薫田さ



んのほうから話があった南アフリカに勝つということが起きた。ワールドカップが日本に来るということにも非常に後押しになったと思うのですが、その1995年から2015年までの20年間をみるとすごい成長を感じました。

嶋崎 ありがとうございます。今のお話で補足ございますか、薫田さん。

薫田 いや、私の記憶から消したいことなんです(笑)。先程、村田さんはその試合を観たのは1年後でしたっけ、1か月後でしたっけ？

村田 1か月後です

薫田 実は私はその試合、まだ観てないんです。徳増さんからお話がありました第3回RWC南アフリカ大会の翌年1996年に世界的にプロ化、オープン化しました。同時に1995年までは16カ国で戦っていたRWCが1999年の第4回大会から20カ国に増やすという、変化のタイミングでした。私はキャプテンとして大会、そしてオールブラックス戦に出場しておりました。予選プール敗退が決定しており、オールブラックスと戦う機会なんて殆どない当時の日本代表にとって、RWCでオールブラックスと戦えるこの機会は、一分一秒無駄にしたいくない思いもありました。私は試合中インプレーを短くする、いわゆるペナルティーとか何かで時間を稼げばもっと失点を抑えることも容易だったと思います。正直、ニュージーランドと戦えるこの機会を、逆にインプレー時間を増やしたいという気持ちが強く、自分たちのやってきたアタックがど



こまで通用するか、失点よりトライを取ることのみフォーカスしていました。但し、試合後の記者会見でこのミスマッチに対する海外メディアの反応、16カ国から20カ国に増やす事について質問が及んだ時、初めて事の重大さに気付きました。いわゆる試合中、得点差が次のRWCに与える影響、世界のラグビーに対する影響がここまであるとは思っていなかったんです。今までで一番辛い記者会見でした。日本ラグビーに対し「負の遺産」を残した、長いラグビー人生一番の反省です。

嶋崎 はい、ありがとうございます。でも、そんな状況から20年間で、8700という日数もでていましたけれども、南アフリカに勝つところまで成長してきているわけです。その辺りについてどうでしょうか村田さんの方から。

村田 そうですね、あの、私も本当は消したい記憶なんですけれど、私はむしろやっぱりザーブといって補欠だったのもう堀越は崩れないだろうなと。最後までこれでいくんだろうな、と思って実はあの、大会期間中にAチーム以外の補欠メンバーというか、メンバー外のメンバー10人くらいですかね、実はですね、ヨハネスブルグ、あの、すごいですね一番危ない地域のところに行きましてそこでラグビーを教えようということになったんですね。で、当然この相手は子ども達なんですけど、まあ護衛の方とかが付きながらその場所に行ったときに、黒人の子もたちと触れ合うんですけど、もちろんスパイクとかじゃないんですね。裸足なんですよね、みんなね。で、30～40人いましたよね。で、一緒にこうタッチラグビーとか

ラグビーワールドカップ 2019 を語ろう！ 第2部

を楽しむと。私はそこに何かこう「あ、この国ってあ
あいう華やかなところもあればこういう、いい方
は悪いですけど南アフリカの底辺を見たんですよ
ね。そこを見て、なんかそこら辺の泥水じゃないです
けど、そういうところを見たときに、日本って本当に
恵まれているのだと。で、南アフリカにはまだこう
いうことが起きているんだと。で、そういうことがあ
ったからずっとワールドカップに参加もできなかった
し、あの大会が初めて参加するんですよ、世界一と
か言われながらずっと参加できなくて。95年に初め
て参加して優勝を勝ち取るというところまでいくん
ですけど僕はそこが一番底辺のところを体感したこと
によって、私自身は成長させてもらえましたし、その
あと試合も出させてもらったんですけど、まず試合も
そうですけど、それ以前に普及活動に行かせてもら
ったことが今の私につながってますし、いまでもず
っと教え続けられるのは、やっぱりそこを見たから
。とにかく子ども達に教えてラグビーを広げよう
という活動は続けていってます。少し話はそれまし
たけれど。」

嶋崎 ありがとうございます。南アフリカワ
ールドカップのことは、「インビクタス」という映画
になっています。その辺の話かなと思っています。そ
れでは、フロアの方からの質問に移ります。まず、今
、その後の強化というお話が出ましたので、その辺
の話を触れていきたいと思うのですが、お二方から
同じような質問が出てます。「メンタル面の強化
というのは具体的にどのように進められているので
しょうか」それからその評価ですね。把握。これは
どうやってされるのでしょうか、ということで、薫
田さんの方に質問が来ているのですけれども、いか
がでしょうか。

薫田 二つ目はハーフ？

嶋崎 把握ですね。メンタル面の成長をどの
ように把握していくかという。

薫田 メンタル面に関しましては、少し逸
れた話になってしまうかもしれませんが、堀越とい
う帝京大学でキャプテン、現在サントリー所属の選
手から聞いた内容ですが、J・ジョセフと帝京大
学の岩出監督のミーティング手法、言葉使いに共
通点が多いと言っていました。二人とも心理学的
発想のミーティング、質問を投げかけている様
です。質問を理解するのに、質問の内容、意図を理
解するのに時間がかかりま

す。今年の6月宮崎キャンプから、NZ人のメン
タルコーチを招集しております。前回のワール
ドカップは荒木香織という日本人のメンタル
コーチでしたが、今回は、ニュージーランド
国内ではラグビーだけではなく、多くのス
ポーツ・競技をサポートした実績のある
非常に多忙なメンタルコーチから指導を受
けております。ジョセフ自体が0 or 100
で決断することも多く、基本的にはト
ップダウン方式のコーチングではなく、
リーダーを育成し、リーダーからの横
発信を考えており、そのリーダー達
へのアプローチ、ジョセフが求める
リーダーの在り方をメンタルコーチ
がサポートしております。

また、ラグビーで一般的に言われる言
葉でスキルとテクニックの話がよく上
がります。テクニックはプレッシャー
のない中での技術。例えば、パス。ス
キルとはアンダープレッシャーでの
テクニックを如何に駆使し、正確な
パスと判断ができるか。普段プレッ
シャーのない所では非常に上手なテ
クニックを使う日本人は沢山いま
すがディフェンスがついた途端、
アンダープレッシャーになった時
にまったく判断できず、正確なパス
も通せない選手が日本人には多い。
オールブラックスの強みは何か？結
局非常にシンプルなことしかやっ
てないんですけど、非常にクオリ
ティの高いスキルを使っているとい
うことです。ベーシックスキルの重
要性、ディフェンスがいても、い
なくてもビジョン、判断、アクション
がブレないのがオールブラックス
の一番の強みだと思います。

ジョセフもテストマッチにおけるハ
ーフタイム後の後半最初の10分間の
プレーの質、特にディフェンスが
良くないため、ハーフタイムの過
ぎしかかたを見直したり、練習で
もハーフタイムを入れてメンタル
トレーニングを行ったりしていました。

エディーも、例えばラインアウト
の場合も前半最初のラインアウトと
後半ラストのラインアウトでは、
ジャンパー、リフターの疲労度は
違います。よって、わざとウエ
イトトレーニングで上半身、下半
身をパンプアップさせた後すぐに
ラインアウトセッションを行っ
たりもしました。このアプローチ
の仕方は、フィジカル、メンタル
もそうですが、最後のワンプレー
で、勝つためのマインド、エディ
ーの功績は選手の意識を世界基準
に変え、ハードトレーニングの必
要性とその裏付けされたRWCで
の勝利を引き寄せた事だともい
います。

嶋崎 ありがとうございます。疲れた状態、いわ

ゆる試合を想定したトレーニングがかなり厳しい中で行われているというのと、メンタルも含めた選手評価の問題について詳しくお話していただきました。

それでは今度招致のお話になるのですが、徳増さんに質問ですが、「招致の時の財政的援助というのはどういったお話だったのでしょうか」という質問ですけれども。お答えになれる範囲でお願いしたいと思います。

徳増 これはなか難しいテーマですね。ほかの国ですとワールドカップが来ると観光産業が潤い、明らかな経済効果が期待できるので「国が財務保証する」というのがだいたい普通だったんですね。しかし、日本は残念ながら 10 年も先の大会を国が財務保証することはできませんでした。2009 年決まった時にはある条件があって。1 年間以内にこの条件を満たさないと開催を剥奪するという一項がありました。そのひとつが、政府による財務保証でしたが、1 年間以内に保証に代わるものを作らなければいけなかったのも、日本スポーツ振興センターの助成金などを説明して納得いただきました。

嶋崎 はい、ありがとうございます。大変苦労されたということなどが、伝わってきたかと思います。さらに、もう一つ質問です。これも徳増さんにということだと思いますが、ワールドラグビーの票の不平等についてのお話がありましたけれども、これは、今後改善、平等になる、オープンになるという、そういう方向性があるのでしょうか、という質問です。それからもう一つは、オリジナルメンバー以外での初のワールドカップということですね。アジアでの開催、日本開催ということで、世界のラグビーのパワーバランスが何かこう変わるのではないかという期待もあるけれど、その辺はどうなのか、というところなんです。なかなか現実には厳しいのかもしれませんが、お答えしていただける範囲で今の二つについてお話をいただければ。

徳増 そうですね。ラグビーがオリンピックに入る時に、賛成しなかった国は、例えばスコットランドなんかそうですね。たとえばアメリカが優勝すると、じゃあなぜスコットランドが 2 票持っているんだという話になってしまうので。いわゆる既得権という問題ですね。なかなか一気に変えていくのは難しい部分があると思います。

嶋崎 はい。やはりこの日本で開催するワールドカップでジャパンがベスト 8 に残って、決勝トーナメントに進むということが、日本で大会やってよかったねと言われることはまちがいないですね。その日本開催のワールドカップですが、今日でちょうど 68 日前ですけれども、なんとなく世間的にはまだ盛り上がりが出ていないんですかね、というご質問なんです。テレビ見てもオリンピックはバンバン出てくるけれどもワールドカップはそれほど出てこないじゃない。まあ日本テレビは自分のところが中継するんでバンバンやってますけど、なんか他局はなんかどうも今ひとつかなって気もしますし、そのために、なんかこうもう一つワールドカップを盛り上げるために、みなさんどうしたらいいと思いますか。ラグビー好きの人はもうワクワクして、待ち遠しくて待っていると思うんですけれども、その辺について、盛り上げについて。これはお三方に順にお願いしたいと思いますけれども。じゃあ村田さんの方からいかがでしょうか。

村田 そうですね、やっぱりラグビーって知ってる人は必ず見に来てくれるんですけど、知らない方を中心に巻き込むかっていうところでは、テレビの影響っていうのは大きいのでね、日テレさんがやるってことで、今ものすごく盛り上がってきていますけど。僕は今晚 9 時のドラマ、「ノーサイドゲーム」をドンドンみんなに宣伝してあれを見てもらう。それが 1 番の近道なのかなって思います。あのラグビードラマ、リアルで見ていて本当に面白いですし毎回感動しています。

嶋崎 面白いですね。しかも、元代表選手がたくさん出ているんですね。広瀬さんなんかはセリフもバッチリで主役級で出ていますから、是非見ていただきたいです。本当に、あれ、この人も出て、この人も出てると、僕らが見るとそういう感じです。ちなみに私に教え子で役者をやっている眞弓葉詩（帝京高校出身）というのも出ていますので、よろしく願いいたします。すみません。くだらないことで。では、薫田さんいかがでしょうか

薫田 これは、組織委員会の徳増さんの方かもしれませんが、認知度調査をずっとやっていると思うんですが、その認知度調査の、温度差というのが非常に大きく、あと世代、年齢でギャップがあります。

ラグビーワールドカップ 2019 を語ろう！ 第2部

例えば大分、これはキャノンの御手洗さんの関係もあると思いますが、非常に認知度は高くなってきています。12会場の中でも温度差っていうのがあり、自治体の皆様も大変ご苦労されています。キャンプ地も含め、これを言い出したら否定になるかもしれませんが、やはり自治体の首長の温度っていいですか、ラグビーに対するパッションそのものが間違いなく影響していると思います。あとは地方といいますとやはり先程も村田さんが言われましたけども、テレビで観るヒーローが一番の憧れ、そういう意味ではメディアの方々に露出をどんどん増やして頂きたいですね。そして、ラグビー的には7月27日のフィジー戦でジャパンが勝つことです。今年は国内での試合、ジャパンの試合が少ないんです。最後日本代表がフィジー戦、そして翌週のトンガ戦でしっかりした戦い方で勝利する事です。そこで結果を残すことがラストスパートになります。あとはTBSのノーサイドゲーム。私廣瀬の役柄、キャラクターはあまり好きじゃないんですけど(笑)。全く違うキャラクターで出てますけど。多分最後はいい人間になって終わるんでしょうね。あれは府中事業所、東芝のグラウンドで撮影しています。是非ご覧になっていただきたいと思います。

徳増 はい。私は非常に楽観的な人間なものですから、ワールドカップ、これは開幕戦が始まってから盛り上がってくるとしています。開幕戦の日本とロシア戦の様子がメディアによって伝えられ、「いまワールドカップやってるの?」という話になって、翌日には横浜でニュージーランドと南アの試合があります。その次がアイルランドとスコットランド。最初に今回こんなビッグなゲームを3つやるようにしたのは意図的です。日本のファン、世界のファンにドカン、ドカンと3日間ですね。この大きなカードをやって、「あれ、今、日本でラグビーのワールドカップやってるんだっけ?」「じゃあどうやってチケット買うんだろう?」って話がそこで急に盛り上がってですね。そして日本がサモアに勝ち、最後にスコットランドに13日、プールゲームの一番最後。もうピークに盛り上がると、私は読んでいます。今心配してもしようがないので、とにかく開幕して一気に盛り上がってくことを夢見えます。

嶋崎 はい、ありがとうございます。そうですねまず、あの、薫田さんもおっしゃいましたけど、釜石でフィジー戦ですね。これでやっぱジャパンが勝って

ですね、1つこう火をつけるということと、やっぱり開幕のロシア戦でいい試合をして、いい勝ち方をして、一気に火がついて、そして南アフリカニュージーランド、アイルランドスコットランドといいカードが続きますので、横浜で。これを皮切りに盛り上がるんじゃないかというお話でしたけれど。皆さんチケットはお持ちでしょうか。チケット、お持ちですか? はい、チケットお持ちの方! 皆さんお持ちですね、素晴らしいですね。はい、でもまだ持ってないよ。これからでも買えるのかなと、そういう質問が届いております。もう日本国内のチケットかなり売れていまして、あと売れ残っているのは九州地区とか、あとは豊田、静岡のエコパくらいは残っているのですけれど、なかなか東京、横浜のチケットはもうほぼ残ってないという状況です。実は海外割り当てのチケットが売れ残ると日本に戻ってくると言われているのですが、その辺の情報をお持ちの方いらっしゃいますか。徳増さんその辺はいかがでしょうか

徳増 これはいつのワールドカップでも組織委員会とワールドラグビーの本部とで、激しいやり取りがあるんです。つまり、彼らはすべての試合の50パーセントを買う権利があるんですが、売れない分はもっと早く戻せという交渉をずっとしているんですけども。それでいったん売り切れたあとも、若干戻ってくることがあり、私もチケットサイトを昨日見てみましたが、準決勝のチケットがあったので、買いました。そういう現象が起きるので、これからまだ出る可能性がありますね。

嶋崎 実は、私も1週間前くらいにチケットサイトを開いたら、一旦停止になってたんですね。おかしいなと思って、まあ一応並んで、順番が来たらメールが来るようにしておいたんです。そうしたらメールがきまして、買えました。南アフリカーニュージーランドとアイルランドスコットランドをそこで買いました。私は横浜に住んでいるので、地元のゲームに行きたいと思って、1週間ほど前に買いました。はい。チケットサイトはマメに開いていただくと時々バツと出ます。

徳増 盛り上がり話ですが、例えば札幌ではオーストラリアとフィジーが21日にやって、次はイングランドとトンガなんですよ。札幌の街がオーストラリアとイングランドのサポーターで溢れかえる、そうい

う現象が起きるでしょう。オーストラリアとウェールズが対戦する 29 日の東京もそうですね。私たちが想像もできないような人のうねりができて、それがまた話題になると。試合だけじゃなくて、試合の外の光景が変わると思います。それを期待したいと思いますね。

嶋崎 ラグビーのサポーターというのは比較的長期の休暇を取って、試合がほしい 1 週間ごとですから、それを何試合か観る。その間は日本各地を観光して歩くという形でいくのが、ニュージーランドやオーストラリアのサポーターの方の特徴ということです。そしてビールを大量に消費すると。これが特徴のようです。またそういうところから盛り上がりが出てくるのかなというふうに思っています。大会の盛り上がりもそうですが、その後のこともここでは議論していかなければいけないと思います。それについてもたくさん質問がきているんですが、例えば、アジアで初めてワールドカップが開かれる訳ですけども、今後のアジアラグビーの将来というのはどうなんでしょうかという質問がきているのですが、これもまた徳増さんに、お答えいただけるところで。

徳増 アジアの各国回ってきましたが、どうしても気候的に高温多湿のところが多いんですよ。どっちかというセブンズに向いている。多くの国がどんどんパスをして繋げるのが好きなので、「女子のラグビー」と、「セブンズ」がこれからアジアのキーワードになってくるかと思います。アジアの中ではラグビーが教育的な価値があることを認めている国が多く、教育の場にラグビーを持ち込もうという声がありますので。一気にはいきませんが、アジアでラグビーボールを触ったことがある子の数を 100 万人にするプロジェクトも達成しましたし、次のワールドカップをもし日本かアジアでやるときには、日本以外の国にも会場を持っていくようなステップになるかと思います。

嶋崎 はい、ありがとうございます。教育的な価値ということですね。価値を認められることで今後も普及していくのではというお話です。一方で、国内、日本のラグビー界はどうなるんでしょうかという質問です。特に大学ラグビーですね。そしてトップリーグ。この辺はどう変わっていくのかなと、このワールドカップ以降。この辺についてお話をいただけると。これは村田さん、薫田さんという順番でお願いしたいと

思います。

村田 そうですね、大学ラグビーは 1 部に関しては今回前倒しになりまして、3 週間から 1 カ月ですか。開幕は初の菅平開催ってことで、1 部所属のチームの監督と議論を重ねてこれでやってしまおう、ということだったんですけど。うちの専修大学に関して言いますと、8 月 16 日に入ってもうそのまま 9 月 1 日開幕まではそのまま菅平にいて、試合をして帰ります。そういうチームもあれば、菅平で合宿をして、一旦関東とかに戻って、もう一回 2 日前くらいから入って試合に入るというところもありますね。もう今回に関してはイレギュラーというのは各チームもう重々皆承知なので、これを受け止めて、受け入れてそのワールドカップの期間中はワールドカップを盛り上げようということになっています。ただし、そこにジュニア戦を当てないとジュニア戦が消化しきれないので、そのワールドカップ期間中はジュニア戦が行われます。だけどジュニア戦でも、例えばカテゴリーが A,B,C,D と 5 チームが 4 グループに分かれているんですけど、専修大学が所属する B のカテゴリーに関しては全ての試合開始時間を 12 時にして必ずワールドカップを観戦できるようにしました。ワールドカップが終わった後はまたリーグ戦、対抗戦という形で元には戻ります。昨シーズンでいうと対抗戦が 5 チーム、リーグ戦は 3 チームしか大学選手権にいけませんでした。これは決勝にいったチームのリーグに翌年一枠増える、大学選手権枠が優先される仕組みです。例えば、私の今後のアイディアでは、対抗戦とリーグ戦の 1 位と 2 位はもう無条件で大学選手権にいける。そして、3 位、4 位、5 位、6 位とリーグ戦の 3 位、4 位、5 位、6 位が、昔交流戦といっていた、たすき掛けでの試合を復活させる。そして勝った方が大学選手権に出場できる。昔は大学選手権ベスト 8 だったのが、いまベスト 12 - 16 まで枠が広がっています。そういうことをやると試合数も増えるし大学ラグビーがまた盛り上がるんじゃないかなと勝手にそのようなことを考えていました。

嶋崎 みなさんご存知だと思うのですが、関東大学ラグビーが今、対抗戦グループ、リーグ戦グループ、と 2 つのカテゴリーに別れてしまっています。いわゆる早慶明を中心とした対抗戦グループと、東海大とか専修大学とか法政大学とかのリーグ戦グループ。この交流はないわけです。リーグ戦の理事もされてい

ラグビーワールドカップ 2019 を語ろう！ 第2部

らっしゃる村田さんは、この分け方そのものをそろそろ考え直した方がいいんじゃないかという意見もあるのではないかと思います、いかがでしょうか。

村田 これは5カ国対抗と同じように難しい問題がありまして(笑)。歴史があるんですよね。その歴史の背景から言うと1967年にリーグ戦と対抗戦が分かれてもう50年になるんですけど、もう52年目ですね。歴史があるんですよ(笑)。だから現状を変えずに大学選手権に行くための対戦方法を変える。これなら交流戦復活ということで良いアイデアなんじゃないかなと思います。

嶋崎 そうですよ。ちょっとまあ言いにくい話ですが、ラグビー協会の方もゴタゴタしています。このワールドカップ直前になって会長が変わるとか、そのようなことになっていますが。選手の強化という意味では、大学生年代のレベルアップという面では、いわゆるトップで試合に出ている15人あるいは25人以外の人たち。ジュニア選手権という形で、Bチームの方も今は公式戦をおこなっていますが、大きな大学になると、帝京大学とかはだいたい140人くらいいますので、A、B、C、D、Eくらいまでチームがあります。そういうところでは、高校でトップだった選手が大学に入る。入るけれども、まあCとかDのカテゴリーにいたるとなかなか試合をする機会に恵まれないということで、18歳〜20歳くらいの選手たちが、なかなかうまく伸びていけないという話もあります。是非こういった構造改革をラグビー界も少しずつ考えてくる時期にきているのではないかと思います。あのこれはあくまでも私見ですので、ご承知おきください。はい、それでは薫田さんいかがでしょうか。トップリーグ等につきましてもワールドカップ以降どう変わっていったらいいのかというお話がありましたらお聞かせ願えればと思います。

薫田 まず、強化と普及というのは全く真反対にある。これはどの競技でも一緒だと思います。そういう意味では私は長年強化に携わってきました。「ワールドカップでトップ8以上入り」が今回の目標なんですけど。それと、世界ランキング8位という、同じ8という数字でも世界ランキング8位を目指す、これは全く違う意味なんです。どういうことかと申しますと、ワールドカップは一発勝負ですから、トップ8に入る可能性はどの国にも、参加国全ての国に可能性はあり

ます。ただし、世界ランキング8位に入るということは、自分たちより格上のチームと対戦し、確実に勝利してポイントを稼ぐ必要があります。世界ランキングを上げる為に、今後Tier 1(上位国)との対戦機会を増やし、日本代表のチーム力を上げていく。2021年以降サンウルブズがスーパーラグビーからの撤退が決定している現在、日本代表の強化の柱はトップリーグの世界基準化が鍵です。ワールドランキングで8位に入るため、トップリーグがフランス、プレミア、スーパーラグビーと同等の強度と価値にあげられるか、すぐ求められる条件です。エディーがHCを務めた4年間は、Tier 1国とほとんど試合ができていません。2016年以降は、先程徳増さんにご尽力された開催国ということもあり、ワールドラグビーのサポート、そして日本協会独自のTier 1国との交渉により、9月6日熊谷で行われます壮行試合の南アフリカ戦で、全てのTier 1国10カ国とこの4年間で対戦することができました。これは代表強化にとって大きな影響を与えました。ただし、これがワールドカップ後、2020年以降も同じように対戦できるか、現在は未知数であり、今言えることは今回のワールドカップで日本代表が世界から認められるチームになる事が全てです。因みに、ワールドカップはランキングポイントが2倍となり、ランキングとしては上げやすいんです。ただし、本当に8位に入る為には、他チームの試合結果にもよりますが、プール戦で3勝は必要となります。

そして何より、この4年間強化の軸はトップリーグとサンウルブズ。そのサンウルブズが2021年以降スーパーラグビーから撤退が余儀なくされている事が日本代表の強化に大きなマイナスです。正直、サンウルブズは世界で最もレベルの高いプロリーグで、年間15試合は世界ランキングトップ8レベル相当の対戦機会を確保してきました。現在、サンウルブズのキャップを40以上持っている選手が多数います。いわゆる世界トップ8と同等クラスの試合を40試合以上経験した選手がこの3年、4年で出てきたという事は日本ラグビーにとって大きな財産です。その対戦機会、経験を失い、2021年以降トップリーグだけで世界のトップ8に入る為のハイパフォーマンスプランが作成できるのか、今後日本協会、強化委員会の課題になると思います。村田さんからも話がありました、フランスのトップ14みたいな世界で最もタフなフィジカルリーグで、且つ試合数も年間30試合程長期間継続されるリーグにトップリーグが肩を並べられるか、世界基準化が求められます。個人的な意見ですが、将

来的にはプロ化はするべきだと思ってます。ただし、現在の日本ラグビーの仕組み、トップリーグの存在は、世界的にも認められ、プロ、アマ両方が混在している現在のトップリーグシステムは、選手引退後の安定も含め良き日本ラグビーの文化となっています。強化の立場として先ずは日本協会が2023年、2027年のワールドカップに向けて世界ランキングを何位に上げるという大方針を掲げる事。その為にハイパフォーマンスプランを作り上げる。サンウルブズの代わりの世界経験、Tier 1との対戦機会、トップリーグのプロ化検討も大方針があつての話です。

大学ラグビーにも長期プラン的には注目しなければなりません。ここにも大学ラグビー好きな方がお見えになると思いますが、例えば、パナソニックの福井翔太、彼は東福岡高校卒業後直ぐに大学に行かず、パナソニックの一員となりました。こういう選手が今後も出てくると強化には非常に大きい。帝京大の一強時代、大学が空洞化を起し、大学ラグビーの質低下はユース世代の選手強化に影響しています。ハイパフォーマンス的には、より早くプロの世界に飛び込む、トップリーグでプロ選手としてもまれより質の高い環境で成長する事も将来的には日本代表への近道です。フランスのトップ14は、U20大会で優勝したフランスチームの選手を、トップ14に入れタフな環境、ゲーム経験値を高めています。トップチームで出場機会の少ない選手は、トップ14のセカンドディビジョンでプレーする機会を提供し、毎週試合を行う。LNR（トップ14統括団体）は、フランスU20代表選手をトップ14で契約し、選手の育成、強化に協力した場合、強化費、育成費として最高年間4億から5億円クラブに支払っていると言っていました。以前は、U20フランス代表として定期的に強化キャンプを行っていましたが、一極集中強化よりトップ14で毎週質の高いゲームを経験させた方が選手強化、U20ナショナルチームの強化に繋がるという方針です。U20日本代表は、現在ブラジルにてジュニアワールドトロフィー世界大会に参加しておりますが、今回は大学の授業、試験と重なり辞退する選手が増え、選手を集めるのが非常に難しかったんです。ユース世代のトッププレーヤーを招集し、同世代の世界的なプレーヤーとの対戦機会を増やす事は、大学生から招集する事は、日本の場合現状かなりハードルが高いというのが事実なんです。世界的にはフランスだけでなく10代のプロ選手、20代前半のプロ選手も多数シニアレベルでプレーしております。日本のユース世代の課題

は、Tier 1国と同等の仕組み作りをいかにするかです。

嶋崎 はい、ありがとうございます。やはり強化のことを考えると、高いレベル、高い水準の試合の数をこなすということですよね。これはもちろんその通りだと思います。ということでサンウルブズの果たしてきた役割というのは非常に大きくて、これがあと1年でなくなってしまうということが決まっていますので、その部分をどうしていくのか、日本代表の強化という意味では考えなくてはいけない部分です。それから、トップリーグのプロ化ですね。今はアマチュアとプロが混在した状態で、例えば東芝の選手なんかはけっこうみなさんきちっとお仕事をされてラグビーをされています。一方で外国人の選手はみんなプロ契約です。やはりその辺はプロ化をしていくということはこれから、マネジメントも含めて。バスケットボールがプロ化をしてBリーグになって、非常に変わってきていると思うんですね。だから同じようにラグビーもプロ化をしっかりと、マネジメントも含めたプロ化をしてしっかりお客さんを集めて、しっかりギャラを払って、そしていい選手を集める。だから高校からトップリーグに行く、高校からプロ選手になるという選手がもっともっと増えていいのではないかな。もちろん大学に行くというのも非常に大きな意味があると思いますけれども。ただ一方で、薫田さんもおっしゃっていましたがラグビーの文化というのもありまして、働きながら、学びながらラグビーをして、ラグビーが終わった後もしっかり社会人として普通に働いていけるような力をそこで身につけていく、これもまた教育としては大事なことだとは思いますが。やはり日本代表のことを考えた時にはプロ化というのは早急に検討していかなければならないことなのかなと個人的には思うわけです。はい、時間の方もだいぶ迫ってまいりましたのでそろそろまとめに入らなければいけないのですが、ワールドカップいよいよ来ますけれど、これは難しい質問だと思うのですが、「ワールドカップの成功とはなんでしょうか」というご質問がきています。これは難しいかなと思うのですが、それぞれやはり考え方等もおありかと思いますが。ちょっと面白い質問だなと思いますので、まあこれを最後に、ちょっと時間とつても構いませんので、3人の方にしっかり、じっくり答えていただきたいと思います。では、徳増さんの方からいかがでしょうか。

ラグビーワールドカップ 2019 を語ろう！ 第2部

徳増 私自身は、ワールドカップは「楽しんだ者勝ち」だと思うんですよ。ここにいるみなさんにも思い切り楽しんでほしいです。スポーツは本来そういうものだと思います。来年のオリンピックへと続きますので、もちろんトップクラスの選手も大切ですけども、スポーツの敷居をもっと低くして、スポーツってもっと「気楽にできるもの、楽しくできるもの」だというカルチャーがこのワールドカップとオリンピックを通じて日本中に普及したらいいなあと思います。そして、ワールドカップを自分たちの「共通体験」としていただきたいんです。みんなと一緒に見るだけじゃなくて、イベントに参加してもいいし、何かでワールドカップが終わった後に、「ワールドカップが来たからこんなことができたな」というものが、もしかしたらラグビーではないかもしれないですね。例えば色んな開催都市でイベントをやって、音楽グループを作って参加する人もいたら、いろんなコミュニティができる。そういうワールドカップを通じてできた仲間たちを大事にして、ワールドカップが終わった後にも何年も、一生続くような関係ができてくれたら、私はラグビーワールドカップが成功したと言えるのではないかなと思っています。

嶋崎 はい、ありがとうございます。どんな経験ができるかということ、これみなさん一人ひとりの話だと思います。はい、では薫田さんいかがでしょうか

薫田 組織委員会嶋津総長のお立場での大会の成功は、アジアで初めての大会、Tier 1 国以外で初開催のこの日本大会をアジアにいかに関心を発信し、約 40 万人の海外からの来日ファンに 44 日間の長期間いかに楽しんでもらえるかが一番です。もちろん試合会場、キャンプ地での経済効果も大きな指標でもあります。普段日本への観光客は、アジア人が 7 割、8 割かと思いますが、ワールドカップは来日客 9 割が欧州人と言われ、富裕層も多く長期間滞在、経済効果も期待できます。但し、我々強化の立場からは、一言しかありません。「決勝トーナメント進出。トップ 8 以上入り」その目標をクリアするしかありません。日本代表がトップ 8 以上に入る事が、一番の大会の成功だと思っております。スコットランド戦が今回の全プール戦の最終戦です。直接対決で勝利したチームが決勝トーナメント進出を果たす、こんな試合をしたいですね！

前回大会もプール戦でサモアと対戦しましたが、前回のサモアチームは内部分裂。コーチと選手がうまく

いかずチーム力は低下していました。今回のサモアは、普段ヨーロッパやスーパーラグビーでプレーしているベストメンバーを揃え強敵です。開幕戦で対戦するロシアも不気味な存在です。ロシアとの開幕戦の試合内容がその後のプール戦に影響しないか心配です。キャプテンのリーチも言っていますが、ロシアは本当に強い。簡単な試合は 1 試合もないと。全ての日本代表メンバーがロシアに対する危機感を持ちながら、どのような状態で開幕に臨めるか、準備ができるかが大会全体を占う意味でもポイントになります。2 戦目のアイルランド、決して勝てないというわけではないと思います。当然、ジョセフも勝ちにいくと思います。そして 3 戦目のサモア、前回大会よりもはるかにチーム力が上がっているサモアにどう勝つか。アイルランダーを乗せたら危険です。日本のペースで、相手の強みを早めに潰す事が大切です。プール 40 試合目のスコットランド、満員の真っ赤な横浜日産スタジアムで最高の準備、コンディション、メンタルを整え、ホームを感じられる雰囲気の中でスコットランドと真っ向勝負。それに勝てば至福の時。ラグビーワールドカップ日本大会の成功です。

嶋崎 ありがとうございます。薫田さん、もう一つ質問を聴きたいんですけど。ズバリ可能性は何パーセントですか？

～～～笑い～～～

薫田 これよく聞かれるんですけど、中途半端に言うといつも怒られるんです。120 パーセントと言っておきます。

～～～笑い～～～

嶋崎 ありがとうございます。心強いお言葉をいただきました。はい、それでは村田さんいかがでしょうか。

村田 はい、やっぱり成功は日本戦だけではなくて全ての会場で満員になる。それで全ての会場でおもてなしができる日本を見せたい。やはり終わった時に、日本に来てよかったなって欧州人に言わせたい、言われたいと思っています。私はセブンズの監督もやっていたのですが、香港セブンズっていうのはそれこそ 9 割が欧州人でお祭りなんですよ。もう、行くだけで楽

しい。もちろん指揮官、指導者としては絶対に勝たなきゃいけない大会ではあったんですけど、勝たなきゃいけないんだけど、あそこに行くと、なんか監督なんだけど、笑顔になる。勝っても負けても賞賛されるし、中休み中に各国が場内を1周パレードをして紹介されるんですが、その時の盛り上げ方っていうのは本当にすごいんですよ。日本代表の多くは、まあリーチ・マイケルもそうでしたけどまず香港セブンズを経験してセブンズで活躍、通用した選手が日本代表に上がっていくんですけど、セブンズって7人で戦う。それも同じグラウンドで。しかも、短い時間だけれど1日に3試合とか2日連続で合計6試合とか、最後まで勝ち続ける限りやるんですけど、本当にタフなんですよ。タフな選手がそこで沢山のことを学んで日本代表に行くから、日本代表でももちろん活躍してくれます。だから、成功って言えば勝っても負けても満員の観客でしっかりおもてなしができる日本、それであってほしい。もう一つ言えるのが、やっぱり薫田さんも言ったようにベスト8なんですよ。これ、今までにない世界を見たいじゃないですか。それをやっぱり私も見たいし、また強くなった、進化した日本を見ることが成功に繋がるのかなと思います。

嶋崎 はい、ありがとうございます。Aプールで日本が仮に2位で通過をして、ベスト8、決勝トーナメントに進んだとすると、準々決勝の相手はBプール1位。おそらくはニュージーランドですね。ということで本気の試合をワールドカップでニュージーランドできると、こういう試合をですね楽しみにしていたいなど、期待をしております。

大変申し訳ないのですが、もう少し質問が寄せられていましたが、お時間になってしまいましたのでこの辺で最後にさせていただきます。最後に、今日の演者の方からファイナルコメントを一言ずついただいたいと思います。簡単にでかまいませんので、一言ずつお願いしたいと思います。では、村田さんから

村田 今日はありがとうございました。実は私もバイヨンヌでコンビを組んでいた10番バルサン・エシェトーが、最近までバイヨンヌでヘッドコーチをやっていたんですけど、彼から連絡があって、この期間に行くからよろしく頼むと。あともう一つお願いがあるんだ、専修大学も見えてあげるからよろしくと。そういうことで、今年バイヨンヌは再度一部に上がったんですけど、そういう20年来の友達がまた来るということ、

それを楽しみにしています。皆さんでワールドカップを盛り上げましょう。今日はありがとうございました。

～～～拍手～～～

嶋崎 ありがとうございます。では、薫田さんお願いします

薫田 今日はありがとうございました。ラグビーの文化の一つに、お酒をよく飲み交わし、ラグビーをやっていたというだけで世界的にも仲間になれる！というものがあります。他にも素晴らしい文化はたくさんありますが、海外からの来日客と一緒に飲みながらゲームを楽しんで下さい。One for All, All for One. No Side の精神といった代表的なラグビー文化もありますが、そういった素晴らしい文化をどう残していくか、今回のワールドカップがキッカケになればいいです。そして、強化としてはトップ8以上という目標があります。トップ8に入るためには120パーセントの力を出し切る必要があります。20パーセントを上積みが必要です。その為には皆様方のお力、ご声援というのが非常に大切です。チケットもまだ購入可能と聞いております。是非、グラウンドに足を運び選手に熱いご声援を頂けましたら幸いです。そして、日本、アジアの子供達に素晴らしいラグビー文化をどう残していくか、レガシーが重要です。今後もお力添え宜しくお願い致します。ご静聴有難うございました。

～～～拍手～～～

嶋崎 ありがとうございます。最後に、徳増さんお願いします。

徳増 ワールドカップの招致をした時に、招致決定の投票日が近づいてくると、自分はいつも「何かやり残したことはないかな、あれが足りなかったから取れなかったってことがあったら嫌だな」という日々を過ごしてましたが、今の私はまさに同じ心境で、ワールドカップ開催の68日。やり残したことは何かないかな、って毎日自分に聞いています。「あれをワールドカップの前にやっておけば、あれをやっとけばよかったな」とならないように。そういうやり残したことの無い日々をワールドカップに向かって過ごし、ワールドカップが終わった後にも何か残る活動に、ぜひみなさんもひとつでも参加していただけたらと思います。

ラグビーワールドカップ 2019 を語ろう！ 第2部

～～～拍手～～～

嶋崎 ありがとうございます。拙い司会で時間が少しオーバーしてしまいました。3人の演者の方にもう一度盛大な拍手をお願いします

～～～拍手～～～

嶋崎 ありがとうございます。これにてシンポジウムを閉会とさせていただきます。

笹原 演者の皆さん、そしてコーディネーターの嶋崎さん、本当にどうもありがとうございました。最後にですね、事務局の方からいくつか連絡事項があります。まず、今回のシンポジウムは日本ラグビーフットボール協会様、およびラグビーワールドカップ2019組織委員会様の後援をいただいています。組織委員会様の方からは皆さんのお手元のクリアホルダーとか、シールとか色々な協賛とかグッズをいただきました。この場を借りてお礼申しあげます。今薫田さんの話からラグビー文化、つまりお酒の文化のお話がありましたけれども、この会場でこれが終わったらラグビー文化継承のための懇親会を行います。案内では5時半からというふうにしてますが、その前に、なるべく早く我々スタッフでこの場を片付けて新しい会場

にしてここで立食パーティーを開催したいと思います。皆さんの目の前で私のICレコーダーが回っているのが気になって本音を言えなかったこともあるかと思いますが、徳増さんはスケジュールの都合上残念ながら参加できないんですが、薫田さん、村田さんは懇親会にも参加していただきます。どうぞ皆さんも懇親会に参加してください。先程の受付をされてない方はこちらで新たに受付をしていただければ懇親会は参加できます。で、待ってる間なんですけれども、外に我々の過去に行ったシンポジウムの報告書が並べてございます。今回ご来場いただいた皆様には特別無償配布したいと思います。ですので是非お手にとってご覧いただき家に持って帰ってください。また、二階の筑波大学附属高校の資料館も開けますので、是非そこにも足を運んでいただきたいと思います。それから、サロン2002の宣伝になるんですけど、みんなの目の前にチラチラ映っていて気になったかと思うんですけど、我々の月例会として8月23日に東京のダイニングツバサというお店で、日本対南アの、あの伝説の試合を観る会を行います。で、私もそうなんですけどなかなかラグビー分らないというような素人の方でもわかりやすいように玄人の方に解説していただくような会になります。こちらにも是非ご参加ください。サロン2002のホームページでご覧になれます。本当に最後になりましたけれど、演者の方に今一度盛大な拍手をお願いします。



2019.9.25 釜石市 釜石鵜住居復興スタジアム ウルグアイ対フィジー

ラグビーワールドカップの歴史

回数 (開催年)	開催国	優勝国	準優勝国	日本代表監督 日本代表主将	日本代表成績
第1回 (1987)	ニュージーランド [*] オーストラリア	ニュージーランド [*]	フランス	宮地克実 林 俊之	●18-21 アメリカ ● 7-60 イングランド [*] ●23-42 オーストラリア
第2回 (1991)	イングランド [*] ウェールズ [*] スコットランド [*] アイルランド [*] フランス	オーストラリア	イングランド [*]	宿澤広朗 平尾誠二	● 9-47 スコットランド [*] ●16-32 アイルランド [*] ○52-8 ジンバブエ
第3回 (1995)	南アフリカ	南アフリカ	ニュージーランド [*]	小藪 修 薫田真広	●10-57 ウェールズ ●28-50 アイルランド [*] ●17-145 ニュージーランド [*]
第4回 (1999)	ウェールズ	オーストラリア	フランス	平尾誠二 アント・リュ・マコーミック	● 9-43 サモア ●15-64 ウェールズ ●12-33 アルゼンチン
第5回 (2003)	オーストラリア	イングランド [*]	オーストラリア	向井昭吾 箕内拓郎	●11-32 スコットランド [*] ●29-51 フランス ●13-41 フィジー ●26-39 アメリカ
第6回 (2007)	フランス	南アフリカ	フランス	J・カーワン 箕内拓郎	● 3-91 オーストラリア ●31-35 フィジー ●18-72 ウェールズ △12-12 カナダ
第7回 (2011)	ニュージーランド [*]	ニュージーランド [*]	フランス	J・カーワン 菊谷 崇	●21-47 フランス ● 7-83 ニュージーランド [*] ●18-31 トンガ △23-23 カナダ
第8回 (2015)	イングランド [*]	ニュージーランド [*]	オーストラリア	エディ・ジョーンズ [*] リーチ・マイケル	○34-32 南アフリカ ●10-45 スコットランド [*] ○26-5 サモア ○28-18 アメリカ
第9回 (2019)	日 本			J・ジョセフ リーチ・マイケル	ロシア アイルランド [*] サモア スコットランド [*]



大会概要

期間 2019年9月20日(金)
～11月2日(土)

出場 20チーム

試合形式

プール戦 5チーム×4プール

(プール内総当たり):40試合

決勝トーナメント 準々決勝/準決勝

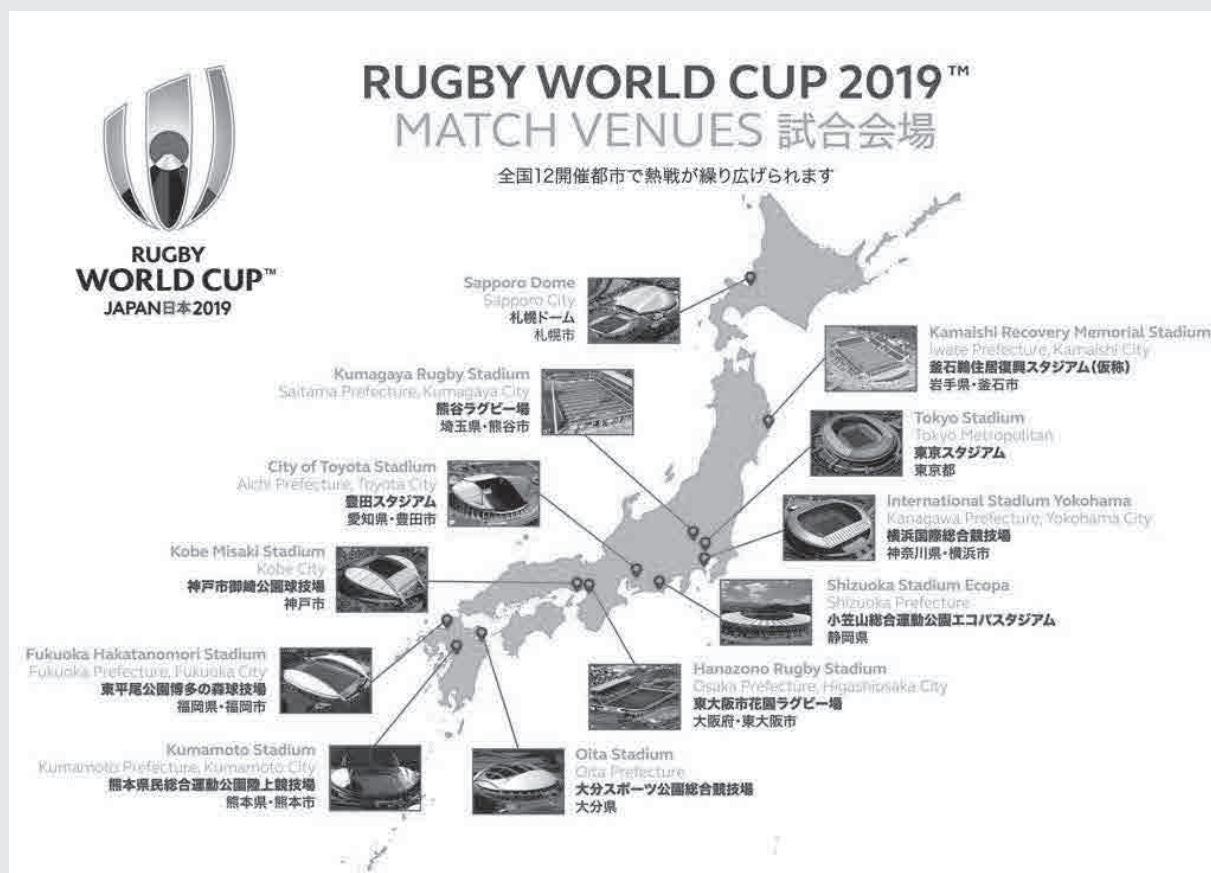
/3位決定戦/決勝:8試合

3

プール組分け 抽選結果

プール A	プール B	プール C	プール D
アイルランド (3)	ニュージーランド (1)	イングランド (4)	オーストラリア (6)
スコットランド (7)	南アフリカ (5)	フランス (8)	ウェールズ (2)
日本 (11)	イタリア (14)	アルゼンチン (10)	ジョージア (12)
ロシア (20)	ナミビア (23)	アメリカ (15)	フィジー (9)
サモア (16)	カナダ (21)	トンガ (13)	ウルグアイ (19)

() 内は、2019年7月1日現在のランキング



ラグビーW杯2019 試合会場（スタジアム）

札幌ドーム	札幌市	多目的ドーム	41,410 人
釜石鶴住居復興スタジアム	釜石市	球技専用	16,187 人
熊谷ラグビー場	熊谷市	ラグビー専用	24,000 人
東京スタジアム	調布市	陸上競技場	49,970 人
横浜国際総合競技場	横浜市	陸上競技場	72,327 人
小笠山総合運動公園 エコパスタジアム	袋井市	陸上競技場	50,889 人
豊田スタジアム	豊田市	球技専用	45,000 人
東大阪市花園ラグビー場	東大阪市	ラグビー専用	30,000 人
神戸市御崎公園球技場	神戸市	球技専用	30,312 人
東平尾公園博多の森球技場	福岡市	球技専用	22,563 人
大分スポーツ公園総合競技場	大分市	陸上競技場	40,000 人
熊本県民総合運動公園陸上競技場	熊本市	陸上競技場	32,000 人

ラグビーワールドカップ 2019 を語ろう！

公開シンポジウム補足資料

試合日程

予選プール A 試合日程

キックオフ	対戦カード	会場
9 月 20 日(金)19:45	<u>日本</u>  vs. <u>ロシア</u> 	東京スタジアム
9 月 22 日(日)16:45	<u>アイルランド</u>  vs. <u>スコットランド</u> 	横浜国際総合競技場
9 月 24 日(火)19:15	<u>ロシア</u>  vs. <u>サモア</u> 	熊谷ラグビー場
9 月 28 日(土)16:15	<u>日本</u>  vs. <u>アイルランド</u> 	小笠山総合運動公園 エコパスタジアム
9 月 30 日(月)19:15	<u>スコットランド</u>  vs. <u>サモア</u> 	神戸市御崎公園球技場
10 月 3 日(木)19:15	<u>アイルランド</u>  vs. <u>ロシア</u> 	神戸市御崎公園球技場
10 月 5 日(土)19:30	<u>日本</u>  vs. <u>サモア</u> 	豊田スタジアム
10 月 9 日(水)16:15	<u>スコットランド</u>  vs. <u>ロシア</u> 	小笠山総合運動公園 エコパスタジアム
10 月 12 日(土)19:45	<u>アイルランド</u>  vs. <u>サモア</u> 	東平尾公園博多の森球技場
10 月 13 日(日)19:45	<u>日本</u>  vs. <u>スコットランド</u> 	横浜国際総合競技場

予選プール B 試合日程

キックオフ	対戦カード	会場
9 月 21 日(土)18:45	<u>ニュージーランド</u>  vs. <u>南アフリカ</u> 	横浜国際総合競技場
9 月 22 日(日)14:15	<u>イタリア</u>  vs. <u>ナミビア</u> 	東大阪市花園ラグビー場
9 月 26 日(木)16:45	<u>イタリア</u>  vs. <u>カナダ</u> 	東平尾公園博多の森球技場
9 月 28 日(土)18:45	<u>南アフリカ</u>  vs. <u>ナミビア</u> 	豊田スタジアム
10 月 2 日(水)19:15	<u>ニュージーランド</u>  vs. <u>カナダ</u> 	大分スポーツ公園総合競技場
10 月 4 日(金)18:45	<u>南アフリカ</u>  vs. <u>イタリア</u> 	小笠山総合運動公園 エコパスタジアム
10 月 6 日(日)13:45	<u>ニュージーランド</u>  vs. <u>ナミビア</u> 	東京スタジアム
10 月 8 日(火)19:15	<u>南アフリカ</u>  vs. <u>カナダ</u> 	神戸市御崎公園球技場

公開シンポジウム補足資料

キックオフ	対戦カード	会場
10月12日(土)13:45	<u>ニュージーランド</u>  vs.  <u>イタリア</u>	豊田スタジアム
10月13日(日)12:15	<u>ナミビア</u>  vs.  <u>カナダ</u>	釜石鶴住居復興スタジアム

予選プールC 試合日程

キックオフ	対戦カード	会場
9月21日(土)16:15	<u>フランス</u>  vs.  <u>アルゼンチン</u>	東京スタジアム
9月22日(日)19:15	<u>イングランド</u>  vs.  <u>トンガ</u>	札幌ドーム
9月26日(木)19:45	<u>イングランド</u>  vs.  <u>米国</u>	神戸市御崎公園球技場
9月28日(土)13:45	<u>アルゼンチン</u>  vs.  <u>トンガ</u>	東大阪市花園ラグビー場
10月2日(水)16:45	<u>フランス</u>  vs.  <u>米国</u>	東平尾公園博多の森球技場
10月5日(土)17:00	<u>イングランド</u>  vs.  <u>アルゼンチン</u>	東京スタジアム
10月6日(日)16:45	<u>フランス</u>  vs.  <u>トンガ</u>	熊本県民総合運動公園陸上競技場
10月9日(水)13:45	<u>アルゼンチン</u>  vs.  <u>米国</u>	熊谷ラグビー場
10月12日(土)17:15	<u>イングランド</u>  vs.  <u>フランス</u>	横浜国際総合競技場
10月13日(日)14:45	<u>米国</u>  vs.  <u>トンガ</u>	東大阪市花園ラグビー場

予選プールD 試合日程

キックオフ	対戦カード	会場
9月21日(土)13:45	<u>オーストラリア</u>  vs.  <u>フィジー</u>	札幌ドーム
9月23日(月)19:15	<u>ウェールズ</u>  vs.  <u>ジョージア</u>	豊田スタジアム
9月25日(水)14:15	<u>フィジー</u>  vs.  <u>ウルグアイ</u>	釜石鶴住居復興スタジアム
9月29日(日)14:15	<u>ジョージア</u>  vs.  <u>ウルグアイ</u>	熊谷ラグビー場
9月29日(日)16:45	<u>オーストラリア</u>  vs.  <u>ウェールズ</u>	東京スタジアム
10月3日(木)14:15	<u>ジョージア</u>  vs.  <u>フィジー</u>	東大阪市花園ラグビー場

ラグビーワールドカップ 2019 を語ろう！

公開シンポジウム補足資料

キックオフ	対戦カード	会場
10月5日(土)14:15	<u>オーストラリア</u>  vs. <u>ウルグアイ</u> 	大分スポーツ公園総合競技場
10月9日(水)18:45	<u>ウェールズ</u>  vs. <u>フィジー</u> 	大分スポーツ公園総合競技場
10月11日(金)19:15	<u>オーストラリア</u>  vs. <u>ジョージア</u> 	小笠山総合運動公園 エコパスタジアム
10月13日(日)17:15	<u>ウェールズ</u>  vs. <u>ウルグアイ</u> 	熊本県民総合運動公園陸上 競技場

準々決勝 試合日程

キックオフ	対戦カード	会場
10月19日(土)16:15	準々決勝1 プールC 1位 vs. プールD 2位	大分スポーツ公園総合競技場
10月19日(土)19:15	準々決勝2 プールB 1位 vs. プールA 2位	東京スタジアム
10月20日(日)16:15	準々決勝3 プールD 1位 vs. プールC 2位	大分スポーツ公園総合競技場
10月20日(日)19:15	準々決勝4 プールA 1位 vs. プールB 2位	東京スタジアム

準決勝 試合日程

キックオフ	対戦カード	会場
10月26日(土)17:00	準決勝1 準々決勝1 勝者 vs. 準々決勝2 勝者	横浜国際総合競技場
10月27日(日)18:00	準決勝2 準々決勝3 勝者 vs. 準々決勝4 勝者	横浜国際総合競技場

3位決定戦 試合日程

キックオフ	対戦カード	会場
11月1日(金)18:00	準決勝1 敗者 vs. 準決勝2 敗者	東京スタジアム

決勝 試合日程

キックオフ	対戦カード	会場
11月2日(土)18:00	準決勝1 勝者 vs. 準決勝2 勝者	横浜国際総合競技場

公開シンポジウム補足資料

9/20 金	19:45	東京	☆日本 v ロシア
9/21 土	13:45	札幌	オーストラリア v フィジー
	16:15	東京	フランス v アルゼンチン
	18:45	横浜	NZv 南アフリカ
9/22 日	14:15	花園	イタリア v ナミビア
	16:45	横浜	アイルランド v スコットランド
	19:15	札幌	イングランド v トンガ
9/23 月	19:15	豊田	ウェールズ v ジョージア
9/24 火	19:15	熊谷	ロシア v サモア
9/25 水	14:15	釜石	フィジー v ウルグアイ
9/26 木	16:45	福岡	イタリア v カナダ
	19:45	神戸	イングランド v アメリカ
9/28 土	13:45	花園	アルゼンチン v トンガ
	16:15	静岡	☆日本 v アイルランド
	18:45	豊田	南アフリカ v ナミビア
9/29 日	14:15	熊谷	ジョージア v ウルグアイ
	16:45	東京	オーストラリア v ウェールズ
9/30 月	19:15	神戸	スコットランド v サモア
10/2 水	16:45	福岡	フランス v アメリカ
	19:15	大分	NZv カナダ
10/3 木	14:15	花園	ジョージア v フィジー
	19:15	神戸	アイルランド v ロシア
10/4 金	18:45	静岡	南アフリカ v イタリア
10/5 土	14:15	大分	オーストラリア v ウルグアイ
	17:00	東京	イングランド v アルゼンチン
	19:30	豊田	☆日本 v サモア
10/6 日	13:45	東京	NZv ナミビア
	16:45	熊本	フランス v トンガ
10/8 火	19:15	神戸	南アフリカ v カナダ
10/9 水	13:45	熊谷	アルゼンチン v アメリカ
	16:15	静岡	スコットランド v ロシア
	18:45	大分	ウェールズ v フィジー
10/11 金	19:15	静岡	オーストラリア v ジョージア
10/12 土	13:45	豊田	NZv イタリア
	17:15	横浜	イングランド v フランス
	19:45	福岡	アイルランド v サモア
10/13 日	12:15	釜石	ナミビア v カナダ
	14:15	花園	アメリカ v トンガ
	17:15	熊本	ウェールズ v ウルグアイ
	19:45	横浜	☆日本 v スコットランド

参加者のご意見

会場で参加者にご回答いただいたアンケートの感想・自由意見の中から、シンポジウムの内容に関するものをご紹介します。

- 徳増氏の招致活動の裏側のお話が大変興味深い内容でした。薫田氏の視覚化やデータ化、ロッカーのマネジメントなど、代表の裏側の話も興味深かったです。
- ゲスト3人の話が、選手活動、チーム強化、大会誘致とバランスがとれていて、全体像を理解するのに役立った。3人それぞれの熱意が感じられ、すばらしかったです。
- 日本代表強化プログラム、試合データ分析など興味をもった。5月の定例会で、RWCの歴史が知れて今のラグビーが判って、今回も良かった。
- ラグビー観戦大好きですが、細かい事を知らなかった。プレー、ワールドカップ等、全て楽しく聞かせて頂きました。特に薫田氏のキックのお話はこれからの観戦楽しみです。
- 招致、強化の両面から現場の第一線で活躍されている方の話を深くうかがうことができた。また演者のみならず、質問についてもラグビーをよく知っている人からのものであるということでレベルの高い内容となった。
- 気運を醸成するという点では非常に良かったと思う。1年早くこのテーマを取り上げてよかったのではないかと思った。
- 全体として大変興味深い内容でした。ありがとうございました。他方でラグビーに関心が無い、薄い層へのアプローチをRWCを通じてどの様にするか、レガシーとは何かという議論は、という点が物足りなかった。
- 元日本代表、監督、協会など様々な立場、RWC出場選手、スタッフ、招致など様々な視点で話を聞くことができて良かったです。まだまだ知らないことが多くあるなと思いました。各々の映像(2015RWCダイジェストや招致など)がとても良かったです。ディスカッションの内容も様々な考え方を聞くことができて勉強になりました。
- RWC招致の話は、おそらくどこでも聞けないものだと思います。とても貴重なお話ありがとうございました。
- 偉大な方、3人からの貴重な話を聞けたことで、ラグビーを観る視点が変わりそうです。RWC本当に本当に楽しみです！企画、実行ありがとうございました。とても良い時間でした。
- 村田さん：フランスラグビーの特徴とライバル堀越選手との日々、レジェンドの平尾さんとの時間についてはとても楽しかった。フランスラグビーは好きなので、マインドセット、文化について知れたのは嬉しいです。
- 薫田さん：現JAPANの戦い方の特徴。キック多用が相手を走らせているという点がとてもおもしろい。
- 徳増さん：この方のためにもみんなでRWC2019JAPANを成功させたいと思いました。その努力に本当に感謝です。
- JRFUとの連携：RWCに向けてのイベントなのでJRFUやRWCともっと連携して、盛り上げておきたかった。あまりの人の少なさ、スクラム感のなさがさびしかった。後援グッズだけではダメです。
- 常連のメンバーと会えるのは嬉しいのですが、今回のイベントのコンセプト、コアバリューを考えると、もっと会と全く関係のない人たちが会場の半数を占めるようにしておきたい。少々残念。内容がとってもよかったので！！
- 3者3様の立場でよかった。特に徳増さんの話は感動した。充実していた。
- 裏話がよかった！大変有益だった！
- ワールドカップの日本開催までの経緯がわかったのが良かったです。
- 大会への見所などの話がもう少しほしかったように感じました。特に注目の試合や各会場の見所などを紹介してほしいです。
- 日本代表のマネジメント、可視化の観点が良かったです。実際の裏話的なものはおもしろい！自分の仕事に役に立つ！

シンポジウム参加者一覧

石井 桂輔	石塚 智弘	井上 俊也	上野 直幸
宇都宮 徹彦	大河原 誠二	大竹 純也	大塚 貴司
岡宮 喜雄	岡本 三郎	小河 宏彰	小川 精一郎
小山田 直子	笠野 英弘	春日 大樹	河原 工
北澤 仁	薫田 真広	国島 栄市	熊谷 建志
小池 文人	小松 章一	佐伯 由美	坂本 英美
笹原 勉	佐塚 元章	嶋崎 雅規	白井 久明
杉崎 宏	関 秀忠	多賀 正和	高橋 慎
谷 裕之	茅野 英一	土井 芳信	徳田 仁
徳山 樹里	徳増 浩司	中塚 義実	濱本 悟志
原島 克	平井 悠登	平山 三重子	藤田 徹
松下 徹	村田 互	渡辺 学	森田 太郎
守屋 佐栄	守屋 俊秀	吉嶺 慎一	

(敬称略)

